



# 豊岡市子ども・子育て支援事業計画

## 平成29年度 実施状況と評価

豊岡市子ども・子育て支援事業計画 平成29年度の実施状況と評価

番号	施策名	施策の概要	担当課	平成28年度実施状況
<b>1. 子どもの健やかな成長に資する教育・保育環境の確保</b>				
<b>(1) 保育所・幼稚園・認定こども園の教育・保育環境の確保</b>				
1	教育・保育の利用定員の確保	就労形態が多様化し、増大する多様な保育ニーズに対応するため、私立保育所や私立認定こども園の新設、及び定員の見直しにより、保育所定員を増やします。 保育所又は認定こども園を新設する場合には、施設として一定規模を確保するため、30人以上の定員を設定することを基本とします。	こども育成課	保育室の増築及び利用定員の見直しにより、利用定員の変更を行った。 ・八代保育園 50人→60人 ・こうのとり認定こども園 60人→80人 ・城崎こども園 90人→100人 ・みかたの森こども園 50人→60人 ・きよたき認定こども園 50人→40人
2	既設の保育所からの認定こども園への移行及び教育・保育施設の再編	「幼保のあり方計画」に基づき、出石地域での幼保連携型認定こども園の導入を検討するとともに、適正規模の子どもの集団の確保が困難になっている保育所・幼稚園及び認定こども園については、児童数の推移や小学校との関係を踏まえ、施設のあり方について検討を進めます。 また、新制度における幼保連携型認定こども園の制度改正の普及を図り、既設の私立保育所からの幼保連携型認定こども園への移行を促進します。	こども育成課	・小坂保育園の設置・運営者である「社会福祉法人 愛育会」から、(仮称)小坂・小野認定こども園の設置・運営者になることについて承諾を得た。 ・整備に向けた地区説明会を開催した。
3	1号認定子どもの3歳児保育の提供体制の拡充	既存の認定こども園において、1号認定子ども(教育標準時間)への3歳児保育の提供体制の拡充を図ります。	こども育成課	こうのとり認定こども園のみ、1号認定子どもの3歳児保育を提供している。
4	既存の認可外保育施設等から認可施設への参入	既存の認可外保育施設が、保育所の認可・認定基準を満たし、保育の質が確保できる場合には、多様な運営主体による保育施設の認可・認定の考え方に基づき参入を認めます。 地域型保育事業については、認可施設による確保方を補足する必要がある場合について、参入を認めます。	こども育成課	既存の認可外保育施設からの移行による小規模保育施設1施設の認可協議を行った。 ・カバンストリート保育園(平成29年4月1日 認可・開園)
5	保育所の第三者評価の推進	保育内容について充実を図るとともに、利用者の選択にも資するよう、情報公開や第三者評価のあり方について検討します。	こども育成課	幼稚園・認定こども園については、学校評議員会を設置し、保育内容等について説明し、意見聴取を行っている。
6	私立保育所等の運営費支援	待機児童の解消をはじめ、乳児保育、障害児保育、一時預かり(一時保育)など多様な保育サービスの充実を図るため、民間保育所、託児保育所への運営支援に努めます。	こども育成課	障害児保育加配、一時預かり事業を実施した民間保育所への補助金及び託児保育所への保育経費に対する補助金を交付した。
7	実費徴収にかかる補足給付	日用品等の実費徴収額について、低所得世帯を対象に費用の一部を補助します。	こども育成課	日用品等の実費徴収額について、低所得世帯を対象に費用の一部を補助した。
<b>(2) 就学前の教育・保育の質の向上</b>				
8	質の高い就学前の教育・保育の実践	小1プロブレムの解消や、保育・教育の質の向上をめざすため、「すくすくプログラム一育てたい5つの力」及び「就学前の保育・教育のスタンダード」に基づいて、各園の特色を生かしながら、0歳児から5歳児までの子どもの発達に応じた育ちと保育の連続性を考慮した質の高い教育・保育を推進しています。 また、保育サービスの多様化、地域における子育て支援ニーズや幼児教育ニーズの高まりに対応できるよう、保育士や保育教諭への研修の機会の充実に努めます。	こども育成課	・公私立の幼稚園・保育園でスタンダードカリキュラム・すくすくプログラムを活用した保育を実施。 ・20園で公開保育を実施。実践事例集(21事例)を作成した。 ・夏季休業中に幼児教育研修会を開催 経験者研修 特別支援教育研修 新任研修 園長研修 修養講座 など ・若手職員を対象としたほのぼの研修会の開催 ・特別支援教育研修の充実
9	「運動遊び」の推進	子どもたちが心身ともに健やかに成長するために、幼児期における運動遊びを推進します。また、指導者の養成にも努めます。	こども育成課	・運動遊び巡回訪問 保育園・幼稚園・認定こども園、小学校 子育てセンター、地区公民館等 ・運動遊び通信の発行 保護者向け(3種類) 8回 職員向け(2種類) 5回 ・運動遊び取組冊子の完成 「体だけじゃない脳も心もぐんぐん伸びる運動遊び事業」 ・豊岡市版小学校体育準備運動の全小学校での全面实施

平成29年度実施状況	平成29年度実施状況の評価と課題等	事業継続・見直し方針
<p>認定こども園の整備により、利用定員の変更を行った。 ・おさかおのこども園 70人→90人</p>	<p>【評価】 20名の定員増が図れた。 【課題】 平成29年度末で待機児童が56名あり、継続して定員増を図る必要がある。</p>	継続
<p>おさかおのこども園を整備し、平成30年4月1日に開園した。</p>	<p>【評価】 「幼保のあり方計画」に基づき、出石地域に幼保連携型認定こども園を導入することができた。 【課題】 「幼保のあり方計画」の残存事業である幼稚園の統合について検討する必要がある。</p>	継続
<p>こうのとり認定こども園、おもしろたのしみえこども園、城崎こども園で1号認定こどもの3歳児保育を提供している。</p>	<p>【評価】 認定こども園における1号認定子どもの3歳児保育は、こうのとり認定こども園、おもしろたのしみえこども園、城崎こども園で実施している。 【課題】</p>	継続
<p>小規模保育事業所1施設の認可を行った。 ・スマイリーハウス保育園（平成30年4月1日開園）</p>	<p>【評価】 豊岡地域における待機児童対策として平成30年4月開園の小規模保育事業所（認可定員19人）1施設の認可を行った。 【課題】 近年続いている豊岡地域の待機児童の早期解消を図るために、0～2歳児の保育の受け皿を増やしているが、それでもなお平成30年4月1日現在の待機児童が解消しない状況のため、待機児童解消策を検討する必要がある。</p>	継続
<p>幼稚園・認定こども園については、学校評議員会を設置し、保育内容等について説明し、意見聴取を行っている。</p>	<p>【評価】 学校評議員会における意見等を園運営に反映させている。 【課題】 学校評議員会での意見聴取結果等を保護者にも周知する必要がある。</p>	継続
<p>障害児保育加配、一時預かり事業を実施した民間保育所への補助金及び託児保育所への保育経費に対する補助金を交付した。</p>	<p>【評価】 安定した保育所運営に寄与している。 【課題】 多様化するニーズに対する支援体制整備に係る財源を確保する必要がある。</p>	継続
<p>日用品等の実費徴収額について、低所得世帯を対象に費用の一部を補助した。</p>	<p>【評価】 低所得者等生活困窮世帯の支援により、円滑な施設利用に寄与している。 【課題】</p>	継続
<p>・公私立の幼稚園・保育園でスタンダードカリキュラム・すくすくプログラムを活用した保育を実施。 ・18園で公開保育を実施。実践事例集（19事例）を作成した。 ・夏季休業中に幼児教育研修会を開催 特別支援教育研修 新任研修 修養講座 など ・若手職員を対象としたほのぼの研修会の開催 ・特別支援教育研修の充実</p>	<p>【評価】 豊岡市の公私立が共に公開保育に参加することは、良い刺激となっており、情報交換の場だけでなく、豊岡市全体の保育の質を高める機会にもなっている。 公開保育後の振り返りの時間は、公開保育者・参加者相互に良い学びの機会となっている。 【課題】 「すくすくプログラム公開保育」への小規模園職員が参加しやすい体制づくりと小学校教員の積極的な参加を促す。</p>	継続
<p>・運動遊び巡回訪問 保育園・幼稚園・認定こども園、小学校 子育てセンター、地区コミュニティー等 ・運動遊び通信の発行 保護者向け(3種類) 9回 職員向け(2種類) 3回 ・運動遊び取組冊子の販売 「体だけじゃない脳も心もぐんぐん伸びる運動遊び事業」 198冊無償配付、202冊有償配付 計400冊配付 ・豊岡市版小学校体育準備運動の全小学校での全面実施 ・「運動と学習をセットにした豊岡モデル」の全校実施</p>	<p>【評価】 「小学校への継承」という観点から、平成28年度から「運動と学習をセットにする豊岡モデル」を、平成27年度から「豊岡市版小学校体育準備運動」を全小学校において取り組み、幼児期から継続して「体の力」を確実に育む取組が展開できている。 【課題】 豊岡市版小学校体育準備運動の継続的实践と運動と学習をセットにした豊岡モデルの取組内容の充実及び継続的实施</p>	継続

番号	施策名	施策の概要	担当課	平成28年度実施状況
10	「英語遊び保育」の推進	幼児期から英語に慣れ親しみ、外国の文化や言語への興味・関心を育てる。	こども育成課	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語遊び保育モデル園事業 H27から継続して、6モデル園において、英語遊び指導員による英語遊び巡回指導を実施（4,5歳対象 週1回45分程度）</li> <li>モデル園外でも英語遊び体験を実施</li> <li>豊岡市英語遊び保育プログラム策定委員会の開催 2回</li> <li>「豊岡市英語遊び保育プログラム」を策定（H29.1.11）</li> <li>英語遊び保育研修会（H28.11.11～12） 講師：神戸市外国語大学 横田玲子教授（保育者向け）</li> </ul>
<b>(3) 保育所・幼稚園及び認定こども園と小学校の連携</b>				
11	保幼小連携の推進	子どもたちの育ちや学びをなめらかに接続するため、幼児児童の交流活動、教職員の研修会など保幼小連携を推進します。	こども教育課	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の相互交流・児童、園児の交流</li> <li>保幼小連絡シートの作成</li> </ul> </li> <li>職種別研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園教諭・保育園保育士研修</li> <li>幼小中教職員合同研修</li> </ul> </li> </ul>
12	保幼小連携の推進	子どもたちの育ちや学びをなめらかに接続するため、幼児児童の交流活動、教職員の研修会など保幼小連携を推進します。	こども育成課	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校区毎の保幼小連携会議等を開催し、学校園行事相互参加、5・5（5歳児と小5年）交流などの交流活動。</li> <li>入園説明会等にて連携小学校の校長により、保護者対象に入学を迎える心得等の講話の機会を設け、保幼小、保護者の共通認識を持てるようにした。</li> <li>支援の必要な幼児の早期発見と情報共有。</li> </ul>
13	公開保育・校種間研修の充実	園児と児童との交流や幼稚園・保育園・認定こども園の保育者と小学校の教師との交流により、情報共有と共通理解を図り、子どもの発達と学びの連続性を重視し、小学校を見通した教育・保育内容の工夫改善を図ります。	こども育成課	<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑な接続に向け <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校教諭の公開保育の参加により幼児の発達の理解を推進する。</li> <li>保育者のオープンスクール参観により児童理解と幼児期からの接続の確認と課題を意識する。</li> </ul> </li> <li>連絡シートの活用</li> </ul>
<b>(4) 子どもたちの夢実現力を育む学校教育の推進</b>				
14	「とよおか教育プラン」(教育振興基本計画)の推進	子どもたちが「ふるさと豊岡を愛し、夢の実現に向け挑戦する子ども」に育っていくように「とよおか教育プラン」に基づき、学校教育の充実と教育環境等の整備をすすめます。	こども教育課	平成27年度に配布した「とよおか教育プラン 平成28年度実践計画にかかる検証結果」のとおり。
15	豊岡市こども支援センターによる特別支援教育及び発達に関する相談支援体制の充実	特別な支援が必要な児童生徒等に適切な支援をするために、豊岡市こども支援センターにおいて、教育相談、各種検査（心理検査、視機能検査、語彙検査等）、保護者相談等を実施。学校との情報共有を図り、関係機関と連携した取組を行う。	こども教育課 こども育成課	平成27年度に配布した「とよおか教育プラン 平成28年度実践計画にかかる検証結果」のとおり。
<b>2. 子ども・子育て支援事業の充実</b>				
<b>(1) 多様な保育事業の充実</b>				
16	延長保育事業の推進	保育認定を受けた子どもについて、通常の利用日及び利用時間以外の日及び時間において、保育所・認定こども園において時間外保育を実施する。	こども育成課	公立7園、私立16園で実施。
17	一時預かり保育事業の推進	家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児について、主として昼間において、認定こども園、保育所において、一時的に預かり、必要な保育を行う。	こども育成課	公立6園、私立16園で実施。
18	病児、病後児保育事業の推進	保護者の就労等の理由により、その子どもが病気やその回復期にあり、集団生活が困難な場合に、あらかじめ医師の診断と指導を受けた上で、看護師・保育士が専用施設で一時的に保育を行う。	こども育成課	私立1施設（チャイルド・ケアセンター）で実施。
19	障害児保育事業の推進	個別の支援を必要とする子どもが、地域の子どもたちと共に過ごせるよう、保育所等での受入れに努めるとともに、受入れに際しては関係機関と連携を図り、その支援体制の充実を図ります。 また、障害のある乳幼児や児童を、保育所において安全かつ適切に受入れられるように、職員の配置や研修、設備の充実に努めます。	こども育成課	障害児を受け入れている認可保育所・認定こども園に対し、保育士、保育教諭及び看護師の加配に係る経費を補助した。

平成29年度実施状況	平成29年度実施状況の評価と課題等	事業継続・見直し方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>英語遊び保育モデル園事業 H27～28年度のモデル園での実践をふまえ、H29から全市的に展開している。</li> <li>英語遊び指導員6名と推進員2名の計8名体制で1園につき、年間15回程度で英語遊び巡回指導を開始。 (4歳児 30分/回、5歳児 40分/回)</li> <li>英語遊び保育研修会の開催(H29. 11. 15及び11. 29) 講師：英語遊び指導員及び推進員</li> <li>英語遊び指導員連絡会の開催 月1回</li> </ul>	<p>【評価】 H27～28年度のモデル園による先行実施をふまえ、H29年度から全市的に展開してきた。段階的導入と現場職員への事業内容説明を実施してきたことにより、円滑に事業導入でき、園児たちは楽しく英語に慣れ親しむことができている。 H29年度末に実施した園児へのアンケートでは、「英語遊びは楽しかったですか」の問いに96.6%の園児が「はい」と回答していた。</p> <p>【課題】</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>交流事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の相互交流・児童、園児の交流</li> <li>保幼小連絡シートの作成</li> </ul> </li> <li>経験年次・職種別研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園教諭・保育園保育士研修</li> <li>幼小中教職員合同研修</li> </ul> </li> </ul>	<p>【評価】 園児と児童の交流や保育・授業参観等を通して、教職員が園児・児童の実態や指導法について共有し、指導に生かしている。</p> <p>【課題】 保幼小連絡シートを活用しながら、実効性のある引継ぎにしていく必要がある。(子どもの実態、有効な指導・支援の手立て等)</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校区毎の保幼小連携会議等を開催し、学校園行事相互参加、 5・5(5歳児と小5年)交流、5歳児と小1年の交流活動等。</li> <li>入園説明会等にて連携小学校の校長による講話の実施により、 保幼小と保護者の共通認識を図る。</li> <li>支援の必要な幼児の早期発見と情報共有、ケース会議の実施</li> </ul>	<p>【評価】 ・交流活動を通して、学校園の職員が相互に実際の子どもの姿や指導を見ることで、お互いの理解につながっている。 ・園児と児童の交流により顔見知りができることで、就学に向けての安心感をもつことができている。 ・配慮を要する園児についても、小学校へつなぎやすくなっている。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>就学前の幼児を対象とした公開保育を、より発達の過程を意識した保育とするために、3歳児の公開保育も実施する。</li> <li>保育者がオープンスクール参観・授業参観をすることにより、児童理解を深めるとともに、幼児期から接続する意義や課題を確認及び意識する。</li> </ul>	<p>【評価】 ・3歳児の公開保育を行ったことにより、今まで公開保育に参加していなかった職員も参加するようになり、研修の機会が広がった。</p> <p>【課題】</p>	継続
別添「とよおか教育プラン平成29年度実践計画にかかる検証結果」のとおり。	別添「とよおか教育プラン平成29年度実践計画にかかる検証結果」のとおり。	継続
別添「とよおか教育プラン平成29年度実践計画にかかる検証結果」のとおり。	別添「とよおか教育プラン平成29年度実践計画にかかる検証結果」のとおり。	継続
公立7園、私立17園で実施した。	<p>【評価】 保育時間の延長を希望する保護者の利便性向上に寄与している。</p> <p>【課題】 保育士の確保策を検討し、実行する必要がある。</p>	継続
公立6園、私立17園で実施した。	<p>【評価】 一時的な保育を希望する保護者の利便性向上に寄与している。</p> <p>【課題】 保育所等への入所児童が増加しているなか、一時預かりのための保育士配置が厳しい状況であり、保育士の確保策を検討し、実行する必要がある。</p>	継続
私立1施設(チャイルド・ケアセンター)で実施した。	<p>【評価】 病児・病後児保育を希望する保護者の利便性向上に寄与している。就労世帯への支援にもつながっている。</p> <p>【課題】</p>	継続
障害児を受け入れている認可保育所・認定こども園に対し、保育士、保育教諭及び看護師の加配に係る経費を補助した。	<p>【評価】 対象園へ支援することにより、障害児の処遇向上が図られている。</p> <p>【課題】 障害児保育の認定基準として、通所していることが条件としてあるが、施設が一杯で通所できず補助できない場合があるので、改善策を検討する必要がある。</p>	継続

番号	施策名	施策の概要	担当課	平成28年度実施状況
20	重度食物アレルギー児の受入れの充実	食物アレルギーの子どもが増えてきているので、重度食物アレルギー児の受入れ環境を整えるよう努めます。	こども育成課	豊岡市食物アレルギー対応マニュアルに基づき、医師の指示書に従って、各園保護者、調理室、職員との連携を図りながら、除去食などの対応を行っている。 平成28年度は73名の対応を行った。
<b>(2) 放課後の児童の健全育成</b>				
21	放課後子ども教室の推進	すべての子どもたちが放課後や休日などに学年の異なる友だちと自由に遊んだり、地域の人々と交流できる「放課後子ども教室」を開設し、地域住民及び団体等との連携・協力体制を確保しながら、子どもたちの健全育成を推進します。	こども育成課	8校区に開設 (八条、竹野、八代、三方、清滝、福住、高橋、資母)
22	放課後児童クラブの充実	増加するニーズに対応するため、小学校との連携により学校施設(体育館、余裕教室等)を活用する等施設の確保に努め、全小学校区において放課後児童クラブを開設し、適切な運営と児童への保育の質の向上に取り組み、利用する児童が心身ともに健やかに成長できるよう支援します。	こども育成課	年度当初(4月)から市内全29小学校に34のクラブを開設、実施した。
23	放課後児童クラブ・小学校・幼稚園との連携の強化	放課後児童クラブと、学校や幼稚園との連携を強化し、子どもの学校での様子やクラブなどでの様子などについて情報の交換・共有化を図り、放課後の子どもたちの安全の確保や健全な育成に努めます。	こども教育課	・放課後児童クラブと、小学校・幼稚園が、子どもの学校での様子やクラブでの様子について、情報共有を図る。 ・小学校・幼稚園の警報発令時の下校時刻が変更になる場合などには、必ず連絡を入れ、情報共有を図る。
24	放課後児童クラブ・小学校・幼稚園との連携の強化	放課後児童クラブと、学校や幼稚園との連携を強化し、子どもの学校での様子やクラブなどでの様子などについて情報の交換・共有化を図り、放課後の子どもたちの安全の確保や健全な育成に努めます。	こども育成課	全児童クラブ(29小学校区34クラブ)で小学校、幼稚園及び担当課による連絡会を開催し、連携の強化に努めた。
25	放課後児童クラブと放課後子ども教室との連携及び一体的な実施	小学校敷地内又は隣接した場所に開設している放課後児童クラブと放課後子ども教室を一体的に実施します。また、放課後児童クラブと放課後子ども教室の指導員・支援員・コーディネーター等が相互に連携して、双方の児童が参加できる事業の充実を図ります。	こども育成課	8教室(八条、竹野、八代、三方、清滝、福住、高橋、資母)開設、うち3教室で放課後児童クラブと連携し実施。 竹野、高橋、資母…連携型
<b>(3) 子育てに関する相談、情報提供の充実</b>				
26	利用者支援事業の推進	子ども又はその保護者の身近な場所で、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等の情報提供及び必要に応じ相談・助言等を行う。(基本型・特定型)	こども育成課	特になし
27	利用者支援事業の推進	子ども又はその保護者の身近な場所で、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等の情報提供及び必要に応じ相談・助言等を行う。(母子保健型)	健康増進課	H29年度開設に向けて準備を行った。
28	豊岡市こども支援センターにおける相談体制の拡充	(再掲)	こども教育課 こども育成課	
29	学校・幼稚園・保育所における相談体制の充実	市内の保育所で実施されている子育て支援教室やサロンについての情報提供に努めます。また、保育所や幼稚園だけでなく学校においても、子育てに関する相談、情報交換の窓口として、機能の充実に努めます。	こども育成課	公開保育を 公立8園、私立3園で実施した。

平成29年度実施状況	平成29年度実施状況の評価と課題等	事業継続・見直し方針
豊岡市食物アレルギー対応マニュアルに基づき、医師の指示書に従って、各園保護者、調理室、職員との連携を図りながら、除去食などの対応を行っている。 平成29年度は86名の対応を行った。	【評価】 マニュアルに基づく対応を行うことにより、関係職員が共通認識を持ち、危機管理意識の向上につながっている。 【課題】 対応マニュアルの周知と実施手順の順守を今後も継続的に徹底していく。	継続
7校区に開設 (八条、竹野、八代、清滝、福住、高橋、資母)	【評価】 放課後等の子どもたちの居場所として、また地域の方たちとの交流の場として定着している。 【課題】 地域の人的な協力が欠かせないが、運営にかかわる方の高齢化や担い手不足、後継者不足等で今後の継続運営に不安を抱える地域が多い。新規教室の開設も同様の理由で困難な状況である。「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」のなかで、今後の事業あり方、進め方を十分検討する必要がある。	継続
市内全29小学校に34のクラブを開設、実施した。	【評価】 年度当初から未開設校区が解消となった。 【課題】 利用者の増加に対する対策。開設場所・スペースの確保、支援員・補助員の確保。児童クラブでの生活、保育の質の向上。	継続
・放課後児童クラブと、小学校・幼稚園が、子どもの学校での様子やクラブでの様子について、情報共有を図る。 ・小学校・幼稚園の警報発令時の下校時刻が変更になる場合などには、必ず連絡を入れ、情報共有を図る。	【評価】 ・情報共有は全学校で取り組んでいる。定期的な情報交換に加え、いじめ等に関する実態や指導の状況について随時協議している学校もある。実情に応じた情報共有の形が工夫できつつある。 【課題】 ・放課後児童クラブ内でのトラブル事案もあり、より日常的な情報交換を密にし、個々の児童、集団の様子をより深く理解し、共有していく必要がある。	継続
全児童クラブ(29小学校区34クラブ)で小学校、幼稚園及び担当課による連絡会を開催し、連携の強化に努めた。	【評価】 連絡会を持つことで緊急時はもとより、平時からの連絡体制の強化につながっている。 【課題】 さらなる連携強化に向けた具体的な方法の確立(情報伝達・共有の迅速化など)	継続
7教室(八条、竹野、八代、清滝、福住、高橋、資母)開設、うち3教室で放課後児童クラブと連携し実施。 竹野、高橋、資母…連携型	【評価】 連携できている地域については、放課後こども教室に児童クラブ利用児童も参加し、事業の活性化につながっている。 【課題】 連携及び一体的な実施ができていない地域がある。放課後子ども教室と放課後児童クラブの開設場所が離れているなどの物理的な課題のほか、もともと両事業の目的が違うため、相互理解が促進しにくい側面がある。教室各々に立ちあがったときの事情ややり方があるため、画一的に話を進めることができない。	継続
	【評価】  【課題】	今計画期間は、基本型・特定型は未実施の予定
・専任の保健師を配置して、相談体制を強化した。 ・妊娠中の相談及び新生児訪問を可能な限り全数実施し子育て家庭のニーズを把握し、必要な支援につなぐ 支援プラン作成数 27件 保健師訪問 実73人 のべ114回(産前・産後サポート事業) 家事援助(サポーター派遣) 養育支援訪問以外:1人18回 産後ケア 宿泊型:1人2日 訪問型:10人のべ16回 ・妊産婦の不安の軽減のため、母親の交流会を教室形式で開催 マタニティママ&ベビー交流会 6回 のべ81人参加 ・マタニティママ&ベビー交流会にて、年3回、月齢に合った離乳食の進め方の実践ができるよう、健康教育・相談及び離乳食の調理実習・試食を実施。	【評価】 H29年度4月～母子保健型を健康増進課内に開設し相談業務を実施開設から1年経過し、支援の必要な妊産婦の情報集約と関係機関との連携を図る事ができつつある。 【課題】 引き続き、ワンストップ窓口及び支援サービスの周知を図る。	継続
・公立私立保育園、認定こども園による公開保育の実施。 ・幼稚園による未就園児の会の実施。	【評価】 幼児・保護者共に交流の場、子育て支援の場となっている。  【課題】	継続

番号	施策名	施策の概要	担当課	平成28年度実施状況
30	学校・幼稚園・保育所における相談体制の充実	市内の保育所で実施されている子育て支援教室やサロンについての情報提供に努めます。また、保育所や幼稚園だけでなく学校においても、子育てに関する相談、情報交換の窓口として、機能の充実に努めます。	こども教育課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校では、学期に1回程度、保護者懇談を実施するなどしている。</li> <li>・就学前から、幼稚園等と連携し、子どもの情報を共有するとともに、保護者との相談体制を整えている。</li> <li>・「はばたきメッセージ」を活用した校長講話を実施して、相談体制を整えている。</li> <li>・こども支援センターとの連携強化に努めている。</li> </ul>
31	「子育て支援メッセージ」の配布	妊娠期から乳幼児期・児童期にかけて子育て不安の解消や豊かな心を育む家庭教育を推進するため、マイナス1歳からの子育て支援メッセージ（冊子）を配布します。	こども育成課	母子健康手帳交付時に、「とよおかすくすくメッセージ（マイナス1歳からの子育て支援メッセージ）」を配布した。3歳児検診時に「3歳からのすくすくメッセージ」を配布した。
32	「子育て支援ガイドブック」の配布	保健・医療・福祉・教育などの各分野で市が実施している子育て支援について、事業や施策などを掲載した子育て支援ガイドブックを配布します。	こども育成課	豊岡市子育てガイドブックを更新、作成し、子育て支援サービス・相談先を紹介するため母子手帳交付時や転入時に配布した。合わせて相談事業に役立ててもらうため、学校園、子育てセンターや公民館、図書館などに配布した。
33	ホームページ「すくすくタウン」の充実	子育てに関する情報を集約したホームページを充実し、子育て支援の情報提供に努めます。	こども育成課	ホームページ「すくすくタウン」に子育て支援に関する情報を掲載した。
34	父親の育児参加の促進（父親対象の子育て講座等の開催）	育児において父親が積極的に役割を果たすことが望まれます。男女が協力して家庭を築き、子どもを生き育てることの大切さを理解し、親になるための意識啓発を行います。	こども育成課	各子育てセンターにおいて、父親対象の事業等を開催した。 6センター合計 34回実施 1,096人参加
35	健診の機会を利用した学習機会の提供	健診にはほとんどの子育て中の親子が参加することから、健診の機会を活用した、家庭教育に関する情報提供や学習の機会の提供方法について検討します。	健康増進課	1歳6か月児健診・3歳児健診で、市独自で作成したパンフレットを受診者へ配付した。
36	健診の機会を利用した学習機会の提供	健診にはほとんどの子育て中の親子が参加することから、健診の機会を活用した、家庭教育に関する情報提供や学習の機会の提供方法について検討します。	こども育成課	子育てセンター職員が、健診の場に出向き、子育てセンターのPR、事業への参加の勧誘等の情報提供や保護者との関係づくりを行っている。
37	幼児期の生活習慣（生活リズム）の確立への啓発の推進	基本的な生活習慣の乱れが、学力や体力低下と関係があるとされていることから、「早寝・早起き・省テレビ」や、朝食を食べることなど、生活リズムの向上について、保護者への意識啓発に努めます。	健康増進課	乳幼児健診や育児教室等で生活リズム向上への意識啓発に努めている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1歳のすくすく広場 12回</li> <li>・にこにこ教室（2歳児育児教室）16回</li> <li>・1歳6か月児健康診査 30回</li> <li>・3歳児健康診査 30回</li> </ul>
38	幼児期の生活習慣（生活リズム）の確立への啓発の推進	基本的な生活習慣の乱れが、学力や体力低下と関係があるとされていることから、「早寝・早起き・省テレビ」や、朝食を食べることなど、生活リズムの向上について、保護者への意識啓発に努めます。	こども育成課	生活リズムの重要性を伝えるため、1歳6か月検診時に啓発冊子「いちろくザウルス」を、3歳児検診時に「3歳からのすくすくメッセージ」を配布し、啓発を実施した。 また、子育てセンターの事業において、基本的な生活習慣の重要性を伝えるための講座等を実施した。
39	幼児期の生活習慣（生活リズム）の確立への啓発の推進	基本的な生活習慣の乱れが、学力や体力低下と関係があるとされていることから、「早寝・早起き・省テレビ」や、朝食を食べることなど、生活リズムの向上について、保護者への意識啓発に努めます。	こども教育課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学1年生に「とよおかはばたきメッセージ」を配布。</li> <li>・各小学校が入学説明会等の機会に、「とよおかはばたきメッセージ」を活用し、基本的な生活習慣・学習習慣の確立の大切さについて説明を行った。</li> <li>・学校だより等も活用し生活リズムの重要性を啓発した。</li> </ul>
40	講演会・学習会等の開催	子育て・親育ちの大切さについて理解を深めるための講演会や学習会などの開催に努めます。	こども育成課	各子育てセンターにおいて、子育て講座等を開催した。 センター合計 323回実施 7,760人参加

平成29年度実施状況	平成29年度実施状況の評価と課題等	事業継続・見直し方針
<p>・学校では、学期に1回程度、保護者懇談を実施するなどしている。</p> <p>・就学前から、幼稚園等と連携し、子どもの情報を共有するとともに、保護者との相談体制を整えている。</p> <p>・「はばたきメッセージ」を活用した校長講話を実施して、相談体制を整えている。</p> <p>・こども支援センターとの連携強化に努めている。</p>	<p>【評価】</p> <p>・保護者懇談会については、全学校において取り組んでいる。</p> <p>・就学・進学・進級については、夏季休業中に豊岡市教育相談会を開催し、保護者からの相談に対応できるようにしている。</p> <p>【課題】</p> <p>・就学に関する子育て相談等については、専門的な知識を必要とする場合があり、支援センターをはじめとする関係機関との連携をより強める必要がある。</p>	継続
<p>3歳からのすくすくメッセージの残が底をついたため、3,000部増刷した。併せて、発行から6年が経過しており、内容の見直しや文字が多すぎるとの指摘を踏まえうえて、改訂した。主に3歳児健診時に配布した。</p>	<p>【評価】</p> <p>子育てに有益な情報の提供や子育て不安の解消はじめ、子育てセンターなどの子育て支援施策などの情報発信にもつながっている。</p> <p>【課題】</p> <p>冊子だけではなく子育て世代に受け入れられやすいスマートフォンなど気軽にアクセスできる媒体での情報発信の方法の検討</p>	継続
<p>豊岡市子育て支援ガイドブックを官民協働発行により、更新、作成した。子育て支援サービス・相談先を紹介するため母子手帳交付時や転入時に配布した。合わせて相談事業に役立ててもらうため、学校園、子育てセンターなどに配布した。</p>	<p>【評価】</p> <p>各機関が実施している子育て支援施策などの情報発信することで、子育て不安の解消につながっている。</p> <p>【課題】</p> <p>冊子だけではなく子育て世代に受け入れられやすいスマートフォンなど気軽にアクセスできる媒体での情報発信の方法の検討</p>	継続
<p>ホームページ「すくすくタウン」に子育て支援に関する情報を掲載した。</p>	<p>【評価】</p> <p>子育て支援に関する情報を発信しているが、一部情報など更新されていないものがある。タイムリーな情報発信が必要である。</p> <p>【課題】</p> <p>より多くの子育て家庭が確実に情報をキャッチできるよう、より分かりやすく使いやすい情報発信の方法の検討</p>	継続
<p>各子育てセンターにおいて、父親対象の事業等を開催した。</p> <p>6センター合計 35回実施 1,106人参加</p>	<p>【評価】</p> <p>父親対象事業への参加者数が増加傾向であり、子育て、家庭教育への男女共同参画の啓発に資している。</p> <p>【課題】</p> <p>父親が参加しやすい事業の形態、開催日時等検討し、より事業に参加しやすい環境を整える。</p>	継続
<p>1歳6か月児健診・3歳児健診で、市独自で作成したパンフレットを受診者へ配付した。</p>	<p>【評価】</p> <p>市独自で作成したパンフレットは、身近に感じ、読みやすいものとなっている。</p> <p>【課題】</p> <p>今後も同様に配付をする事で、育児支援・家庭教育の場とする事が必要。</p>	継続
<p>子育てセンター職員が、健診の場に出向き、子育てセンターのPR、事業への参加の勧誘等の情報提供や保護者との関係づくりを行っている。</p>	<p>【評価】</p> <p>子育てセンターや市の子育て支援施策を知ってもらう良い機会となっている。特に第1子を授けられた保護者への効果は高く、子育てセンターとつながるきっかけになることも多い。</p> <p>【課題】</p> <p>子育てセンター等に来れない方など家庭教育等に関する学習機会に参加できにくい親子への促しや対応方法の検討</p>	継続
<p>乳幼児健診や育児教室等で生活リズム向上への意識啓発に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1歳のすくすく広場 12回</li> <li>・にこにこ教室（2歳児育児教室）16回</li> <li>・1歳6か月児健康診査 30回</li> <li>・3歳児健康診査 30回</li> </ul>	<p>【評価】</p> <p>乳幼児健診・教室で質問票から聞き取った内容により、具体的な指導が出来ていると評価する。</p> <p>【課題】</p> <p>保護者の生活パターンの乱れにより、生活習慣の乱れがある幼児もあり、今後も助言が必要と考える。</p>	継続
<p>生活リズムの重要性を伝えるため、1歳6か月検診時に啓発冊子「いちろくザウルス」を、3歳児検診時に「3歳からのすくすくメッセージ」を配布し、啓発を実施した。</p> <p>また、子育てセンターの事業において、基本的な生活習慣の重要性を伝えるための講座等を実施した。</p>	<p>【評価】</p> <p>子育てに有益な情報の提供や子育て不安の解消はじめ、子育てセンターなどの子育て支援施策などの情報発信にもつながっている。</p> <p>【課題】</p> <p>啓発の効果測定方法の確立と効果の検証</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学1年生に「とよおかはばたきメッセージ」を配布。</li> <li>・各小学校が入学説明会等の機会に、「とよおかはばたきメッセージ」を活用し、基本的な生活習慣・学習習慣の確立の大切さについて説明を行った。</li> <li>・学校だより等も活用し生活リズムの重要性を啓発した。</li> </ul>	<p>【評価】</p> <p>・入学説明会で、はばたきメッセージを活用し、生活習慣の確立の重要性を周知し、家庭生活を見直す機会となった。</p> <p>【課題】</p> <p>・入学説明会だけでなく、PTA事業等、保護者が集まる機会をとらえ、保護者への啓発に努める。</p>	継続
<p>各子育てセンターにおいて、子育て講座等を開催した。</p> <p>センター合計 348回実施 13,171人参加</p>	<p>【評価】</p> <p>子育てセンターの子育て講座等の事業は定着している。概ね好評を得ており、子育て不安の解消や子育てへの活力を充電する機会となっている。</p> <p>【課題】</p> <p>より専門的な講座等を全子育てセンター実施できるよう、職員研修の充実や体制の拡充が必要である。</p>	継続

番号	施策名	施策の概要	担当課	平成28年度実施状況
41	関係機関と連携した情報提供の充実	子育てセンターなどにおいては、教育委員会、保育所、保健センター、こども家庭センターなどの関係機関と連携し、子育て支援に関する助成制度や子育てに役立つ最新の情報の収集・提供に努めます。	こども育成課	子育てセンターでは、教育委員会、保育所、保健センター、こども家庭センターなどの関係機関と連携し、子育て支援に関する助成制度や子育てに役立つ最新の情報の収集・提供に努めた。
<b>3. 地域で支える子育て支援の充実</b>				
<b>(1) ファミリー・サポート・センター事業の推進</b>				
42	ファミリー・サポート・センター事業の推進	乳幼児や小学生等の児童を有する子育て中の保護者を会員として、児童の預かり等の援助を受けることを希望する者と当該援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、調整を行う。	こども育成課	平成29年度からの事業実施に向け、推進員を配置し、具体的な活動内容や運営方法等の検討、準備を進めた。
<b>(2) 地域における子育て支援の充実</b>				
43	保育所園庭開放の実施	地域の身近で安全な遊び場として、保育士の関わりによる子ども同士、保護者同士の交流の場として、また子育ての悩みや不安、負担を共有し気軽に話せる場づくりのため、全園での実施に努めます。	こども育成課	公立8園、私立16園で実施
44	幼稚園園庭開放の実施	幼児・保護者同士のコミュニケーションの場として、幼稚園の園庭・遊具の開放を全園でしています。今後とも、子育て支援施設としての機能の充実に努めます。	こども育成課	市内全園で実施
45	公開保育の実施	保育所において、在宅の幼児が同世代の幼児と触れ合えるよう、全園での公開保育の実施を目指します。	こども育成課	公立8園、私立3園で実施
46	子育てサークルへの支援	子育て不安の解消のため、より身近な地域で子育ての情報交換や交流が出来るように、子育てサークルなどが行う事業への支援の充実に努めます。また、地域において子育てサークルの活動が活発なものとなるよう、子育てセンターなどによる支援を推進します。	こども育成課	・子育てセンター利用者の自主的なグループ活動に対し、子育て支援情報の提供や親子活動の実施にあたっての相談など、積極的に支援している。 ・地域で開設されている子育てサロン等に対して、子育て総合センター職員による活動支援を行っている。(23回)
47	子育てリーダーやボランティアの養成	地域において、子育て支援活動の輪が広がるように、子育て支援活動をリードして進められるリーダーや、その活動を支援してくれるボランティアの養成に努めます。	こども育成課	特になし
48	親子で楽しめるイベントの実施	親子で参加できるイベントを実施し、親子でふれあえる機会を増やすとともに、家庭において親子で簡単に遊べる方法などの情報を提供し親育ちの支援に努めます。	こども育成課	豊岡市全域各地区公民館に子育てセンター職員が出向き、子育て情報の提供や子育て相談、親子遊びを実施する「おでかけ広場」を開催。 ・おでかけ広場 66回実施  各子育てセンターで登録制の親子活動事業やどちらの親子でも気軽に参加し、ふれあえる各種事業を実施している。
49	「夏休みラジオ体操顔見知り運動」の推進	地域の人子どもたちと顔なじみになるため、青少年健全育成会議などと連携して「夏休みラジオ体操顔見知り運動」を推進します。	生涯学習課	・青少年健全育成会議地区連絡会や子どもと心でつながる市民運動推進協議会が、地元の区長会、老人クラブ連合会、PTA連合会、子ども会連絡協議会など関係団体と協力して取り組んだ。 ・中学生の参加率は92%。
50	「子どもの野生復帰大作戦」の推進	小・中学生や親子を対象に、自然体験学校やファミリーキャンプなどの野外活動を推進し、たくましい、ふるさとを愛する子どもを育成します。	生涯学習課	・キッズワイルド2016(但馬自然史研究所へ委託による自然体験教室5月～3月) 子どもコース(生き物) 42名 子どもコース(探訪) 19名 親子コース 40組 ・野生復帰まつりの開催(10月23日) 350名の参加を得て実施。

平成29年度実施状況	平成29年度実施状況の評価と課題等	事業継続・見直し方針
子育てセンターでは、教育委員会、保育所、保健センター、こども家庭センターなどの関係機関と連携し、子育て支援に関する助成制度や子育てに役立つ最新の情報の収集・提供に努めた。	<b>【評価】</b> さまざまなルートや手段を使い、一定の情報提供はできているが、市HPで更新されていないままの情報があるなど、十分ではないところもある。 <b>【課題】</b> より多くの子育て家庭が確実に情報をキャッチできるよう、より分かりやすく使いやすい情報発信の方法の検討	継続
平成29年4月1日 センター開設、7月21日から相互援助活動開始。 ○登録会員数（H30.3.31現在） ・まかせて会員 22名 ・おねがい会員 48名 ・どっちも会員 14名 計84名 ○相互援助活動件数 142件	<b>【評価】</b> 会員登録が84名（H29年度目標50名）あり、事業開始初年度としては大きな成果があった。 <b>【課題】</b> 会員登録者数に地域による偏りがあるため、全市的に広めていくための周知や会員登録の推進を工夫していくことが必要である。	継続
公立8園、私立17園で実施した。	<b>【評価】</b> 在宅保護者や園児の交流の場として利用されている。 <b>【課題】</b> 園庭解放の周知に努め、地域子育て支援の充実に努める必要がある。	継続
市内全園で実施した。	<b>【評価】</b> 近隣に遊び場がない、また遊び仲間がいない親子にとっては安全で安心して遊べる場として利用されている。 <b>【課題】</b> 園庭解放の周知に努め、地域子育て支援の充実に努める必要がある。	継続
公立8園、私立4園で実施	<b>【評価】</b> 交流の場、子育て支援の場として利用されている。 <b>【課題】</b> 特定の参加者に偏らず地域全体の取り組みとなるよう推進する必要がある。	継続
・子育てセンター利用者の自主的なグループ活動に対し、子育て支援情報の提供や親子活動の実施にあたっての相談など、積極的に支援している。 ・地域で開設されている子育てサロン等に対して、子育て総合センター職員による活動支援を行っている。（20回）	<b>【評価】</b> 子育て中の親子が、身近な地域で仲間づくりや、子育てに役立つ知識や情報を得られる機会を提供している。 <b>【課題】</b> 地域からの要請があれば何うが、少子化や多様化で「子育て」に対する地域の役割が終わったと考えておられる。継続のために支援・活動を行っていく必要がある。	継続
	<b>【評価】</b>  <b>【課題】</b>	継続
豊岡市全域各地区コミュニティセンターに子育てセンター職員が出向き、子育て情報の提供や子育て相談、親子遊びを実施する「おでかけ広場」を開催。 ・おでかけ広場 73回実施 893人参加  各子育てセンターで登録制の親子活動事業やどちらの親子でも気軽に参加し、ふれあえる各種事業を実施している。	<b>【評価】</b> 子育て中の親子が、身近な地域で集い、交流しあえる機会を提供している。 <b>【課題】</b> 公民館との共催事業であったが、コミュニティ組織が変わって地域のことは地域で意思決定されるようになったので、今までのやり方を変える必要がある。	継続
・青少年健全育成会議地区連絡会や子どもと心でつながる市民運動推進協議会が、地元の区長会、老人クラブ連合会、PTA連合会、子ども会連絡協議会など関係団体と協力して取り組んだ。 ・中学生の参加率は94.5%。	<b>【評価】</b> 中学生の参加率は年々増加し9割を超えており、顔見知り運動が定着してきている。 <b>【課題】</b> ラジオ体操から発展した顔見知り運動の協議が必要。	継続
・キッズワイルド2017（但馬自然史研究所へ委託による自然体験教室5月～3月） 子どもコース（生き物） 36名 子どもコース（冒険） 19名 親子コース 42組 ・野生復帰まつりの開催（予定日10月22日） ※台風の影響により中止	<b>【評価】</b> 平成18年度から継続して、豊岡市内での多様な自然体験により心身共にたくましい子どもたちの育成機会を創出している。 <b>【課題】</b> ・参加者の固定化、年齢の偏り ・事業内容のマンネリ化 ・他部署所管の事業との連携とすみ分け	継続

番号	施策名	施策の概要	担当課	平成28年度実施状況
51	少年スポーツ教室の推進	体力や技術の向上とともに、感動やあこがれ、希望の夢が育まれるよう、日本を代表する選手や一流の指導者などによる教室を推進します。	スポーツ振興課	<ul style="list-style-type: none"> <li>少年野球教室（6回）</li> <li>バレーボール教室（3回）</li> <li>バスケット教室（2回）</li> <li>サッカー教室（1回）</li> </ul>
52	図書館における読み聞かせや読書活動の推進	図書館と地域が連携した体験活動や、図書を活用した学習活動の充実を図り、子どもたちの心の育ちを促進します。	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> <li>定例おはなし会（年代ごとに開催）</li> <li>おたのしみ会</li> <li>おはなしキャラバン、おはなしひろば</li> <li>ブックトーク</li> <li>ブックスタート（配布者数643人）</li> <li>読書推進や読み聞かせに関する講師派遣</li> <li>工作教室</li> <li>としょかん読書推進講座「ことばの力で子どもを育む～読書の役割～」</li> <li>ボランティア研修（読み聞かせ・ストーリーテリング等）</li> <li>学校・幼稚園・公民館等への団体貸出</li> <li>図書館見学・研修受入</li> </ul>
53	公民館主催事業の充実	子どもたちの自然体験、異文化体験、IT体験など様々な体験学習の機会の提供に努めます。	コミュニティ政策課	<p>多くの地区公民館で、子どもを対象とした体験教室等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クラフトテープかご作り</li> <li>子どもパン作り</li> <li>こどもフラワー教室</li> <li>子ども将棋・オセロ大会</li> <li>夏休み子ども謡曲体験教室</li> <li>音楽鑑賞&amp;バルーンアートで遊ぼう</li> <li>子どもウッドバーニング教室</li> <li>粘土で貯金箱作り</li> <li>キックベースボール大会</li> <li>ちびっこカーニバル</li> <li>クルクル回る風車作り、くるくる迷路を作ろう</li> </ul>
54	地域による伝統文化活動の充実	地域に伝わる文化財や伝統行事を活用した学習を充実し、子どもが先人の知恵や技術に興味や関心を持ち主体的な学習に取り組むことを促します。 また、子どもがまつりなどの地域行事やイベントに参加し、大人と交流することで、協調性や郷土愛の育成に努めます。	コミュニティ政策課	<p>多くの地区公民館を通じて、子どもが地域の伝統文化活動や高齢世代に学ぶ活動に参加した。</p> <p>《世代交流活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>親子木工教室</li> <li>三世代交流グランドゴルフ大会</li> <li>おっちゃんと遊ぼう</li> <li>高校生のお姉さんとロールケーキを作ろう</li> <li>もちつき大会</li> <li>チビッコ交流会</li> <li>三世代交流そば打ち大会</li> <li>教育講演会</li> <li>クリスマスツリー額を作ろう</li> <li>子ども編み物教室</li> <li>子どもリース教室</li> <li>子どもクッキング</li> </ul> <p>《高齢世代に学ぶ活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもとの交流会</li> </ul> <p>《地域の伝統文化活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>奈佐節子ども教室</li> <li>子ども麦わら教室</li> <li>秋祭り子ども神輿</li> </ul>
55	地域による伝統文化活動の充実	地域に伝わる文化財や伝統行事を活用した学習を充実し、子どもが先人の知恵や技術に興味や関心を持ち主体的な学習に取り組むことを促します。また、子どもがまつりなどの地域行事やイベントに参加し、大人と交流することで、協調性や郷土愛の育成に努めます。	教育総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆伝統芸能伝承事業補助金交付（子ども対象のみ抽出）</li> <li>①出石町子供大名行列の会</li> <li>◆伝統文化親子教室事業（文化庁補助事業）</li> <li>①柳まつりこどもおはやし教室</li> <li>②大名行列槍振り伝承教室</li> <li>③豊岡地区伝統文化いけばなこども教室</li> <li>④いけばなこども教室（日高）</li> <li>⑤かかし倶楽部</li> </ul>
56	保護者等によるイベント実施への支援	子育て中の母親や地域住民が主体的に企画・参加するイベントの実施を支援し、親育ちの促進とともに、子育て支援の必要性についての理解に努めます。	こども育成課	<p>とよおかこどもまつり、竹野すくすくまつりなど子育てボランティアや地域を中心とした祭り等イベントを支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>とよおかこどもまつり 6/11、7/9</li> <li>竹野すくすくまつり 8/26</li> </ul>

平成29年度実施状況	平成29年度実施状況の評価と課題等	事業継続・見直し方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>少年野球教室 (6回)</li> <li>バレーボール教室 (3回)</li> <li>バスケットボール教室 (1回)</li> <li>サッカー教室 (1回)</li> <li>ジュニア陸上教室 (3回)</li> <li>こどもスポーツ教室 (1回)</li> <li>ボール遊び教室 (1回)</li> </ul>	<p>【評価】 日本を代表する選手や指導者からの指導を受け、体力・技術の向上とスポーツの楽しさを体感させ、感動や憧れ、また希望や夢を育んでいる。</p> <p>【課題】 委託先とスポーツ少年団体との日程調整に時間を要する。個々の子どものレベルに合わせた指導が望まれる。子どもの身体能力、技術向上には、指導者の適切な指導も必要。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>定例おはなし会(年代ごとに開催)</li> <li>おたのしみ会</li> <li>おはなしキャラバン、おはなしひろば</li> <li>ブックトーク</li> <li>ブックスタート(配布者数576人)</li> <li>読書推進や読み聞かせに関する講師派遣</li> <li>工作教室</li> <li>としょかん読書推進講座「地域と本との結び目」</li> <li>ボランティア研修(読み聞かせ・ストーリーテリング等)</li> <li>児童ボランティア講座(初級)</li> <li>学校・幼稚園・コミュニティセンター等への団体貸出</li> <li>図書館見学・研修受入</li> </ul>	<p>【評価】 ・ブックスタートの実施により、市内の全ての子どもが早期に絵本に親しむきっかけを作っている。 ・図書館で事業を行うほか、学校や他施設に読み聞かせに出向くことで、子どもたちが読書に親しむ機会を作っている。 ・ボランティアや関心のある人に向けて研修会を開催することで、子どもの身近な大人の子どもの読書についての意識を高めている。</p> <p>【課題】 ・参加者の少ない館内事業については対象となる子どもが参加しやすい環境設定を検討するとともに、子どものいる場所(学校、その他施設)に出かけて読書の楽しさを伝える事業を増やす等、活動を工夫する。 ・事業展開していくための人材となるボランティア育成を継続する。</p>	継続
<p>多くの地域コミュニティ組織で子どもを対象とした体験教室等を実施した。</p>	<p>【評価】 各地域コミュニティによって評価されている。</p> <p>【課題】 各地域コミュニティによって判断されている。</p>	H29年度より地区公民館は地域コミュニティへ移行した。事業の実施・継続は、各地域コミュニティの判断となる。
<p>多くの地域コミュニティ組織で、子どもが地域の伝統文化活動や高齢者から学ぶ活動を実施した。</p>	<p>【評価】 各地域コミュニティによって評価されている。</p> <p>【課題】 各地域コミュニティによって判断されている。</p>	H29年度より地区公民館は地域コミュニティへ移行する。事業の実施・継続は、各地域コミュニティの判断となる。
<p>1 伝統芸能伝承事業補助金交付(子ども対象のみ抽出) ①出石町子供大名行列の会</p> <p>2 伝統文化親子教室事業(文化庁補助事業) ①柳まつりこどもおはやし教室 ②大名行列槍振り伝承教室 ③豊岡地区伝統文化いけばなこども教室 ④いけばなこども教室(日高) ⑤かかし倶楽部</p>	<p>【評価】 次世代に継承していくためには後継者育成が欠かせないが、子どもを対象とする継続した支援により、その役割の一端を担うことができた。</p> <p>【課題】 伝統芸能保存団体は、後継者不足やその運営費、用具の修繕費などの経済的負担に苦慮されている。</p>	<p>1 廃止</p> <p>市の伝統芸能伝承事業補助金は、公平性の観点から平成30年度から廃止</p> <p>2 継続</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>とよおかこどもまつり、竹野すくすくまつりなど子育てボランティアや地域を中心とした祭り等イベントを支援した。</li> <li>とよおかこどもまつり 6/10、7/1</li> <li>竹野すくすくまつり 8/24</li> </ul>	<p>【評価】 地域全体で子育てに関わる機運を高める機会となっている。</p> <p>【課題】 少子化の傾向にあり、時代にあったやり方を検討していく必要がある。</p>	継続

番号	施策名	施策の概要	担当課	平成28年度実施状況
57	文化活動の機会の充実	①小さい頃から本物の音楽や舞台芸術に触れさせることで、感受性が培われるため、乳幼児も一緒に鑑賞できるコンサートや演劇などの機会の充実に努めます。 ②また、子どもたちの自主的な創作活動を推進するため、美術展などへの出展機会を提供します。 ③さらに、子どもたちの郷土や外国（異文化）への探求的な学びを支援するため、博物館・美術館の展示内容の工夫や、ワークショップなどの充実に努めます。	文化振興課	①『出石永楽館狂言観賞教室』学校公演 おでかけ訪問コンサート おでかけ訪問コンサート夏休み企画 バレンタインピアノコンサート ミュージカル 「かいけつゾロリまほうつかいのでし」 豊岡稽古堂を活かした芸術活動支援事業 ②第67回豊岡市美術展 第20回伊藤清永賞子ども絵画展 ③まるごとモンゴル雛まつり(モン博) (モンゴル文字の毛筆書写や馬頭琴の演奏体験) 子ども写生会やパステル画ワークショップの作品展(美術館)
58	スポーツクラブ21の推進	小学校区単位に、子どもから高齢者まで、幅広い年齢層の住民が、身近な学校体育施設などを拠点としてさまざまなスポーツを楽しむことにより、スポーツを通じた新しい地域コミュニティづくりや青少年健全育成につながる活動を推進します。	スポーツ振興課	・チャレンジデー ・交流スポーツ大会
59	「幼児教育学級」の推進	3～4歳の幼児をもつ保護者を対象に、幼児に関する学習活動や保護者同士の交流を行うことにより、幼児教育に関する知識の習得や、子育てに関する悩み、不安の解消に努め、幼児に対しては、集団生活への順化や幼児期に必要な知識の習得に努めます。	こども育成課	両事業について、平成27年度から事業実施要項を一部改正し実施している(少子化等により年齢区分を細かく分けると参加親子の数が集まらないなどの事情により)。 0～5歳の乳幼児・保護者を対象とした交流活動事業を子育て中の保護者に委託形式で実施することにより、乳幼児期からのしつけや豊かな心を育む家庭教育の充実に努め、親子や地域住民の自発的な学習活動を促進し、もって親と子どもの豊かな人間関係を築き、人としてのあり方や社会性を学ぶ活動を行っている。 ・乳幼児親子交流(0～3歳児対象) 17教室開設 ・幼児親子活動(3～5歳児対象) 13教室開設 ・地域親子活動(0～5歳児対象) 5教室開設 ※いずれの教室も地区公民館単位で開設している。
60	「乳幼児親子学習サークル」の推進	0～3歳の乳幼児と保護者を対象に、ベビー体操や育児に関する情報交換、保護者同士の交流を行うことにより、子どもの健全な成長と育児不安や悩みの解消に努めます。	こども育成課	
<b>4. 母子保健と子どもの医療体制等の充実</b>				
<b>(1) 安全・安心な妊娠・出産のための支援</b>				
61	妊婦健康診査の実施及び費用の助成事業の周知・啓発	妊婦の健康の保持及び増進を図るため、妊婦に対する健康診査として、医療機関において健康状態の把握、検査計測、保健指導を実施するとともに、妊娠期間中の適時に必要に応じた医学的検査を実施する。 また、制度の普及・啓発に努め、引き続き受診率の向上を図ります。	健康増進課	・助成件数 7,425件 ・助成実人員 975人(7.6件/人) ・助成額 41,669千円
62	母子(妊婦・産婦)訪問指導・相談の充実	医療関係機関と連携し、早期から支援の必要な妊婦・産婦の把握に努め、妊娠・出産・育児に関して必要な保健指導や相談に努めます。健やかな出産、育児ができるよう支援するとともに身体面のみならず“こころへの支援”ができる取り組みの推進に努めます。	健康増進課	・妊婦訪問47件 ・新生児・産婦訪問 486件 ・こんにちは赤ちゃん訪問 538件
63	不妊治療助成事業の実施・周知・啓発	不妊治療を必要としている家庭などへの支援のため、兵庫県と市が実施している特定不妊治療費助成金事業についての周知に努めます。	健康増進課	・助成件数 68件 ・助成額 11,303千円 ・申請者平均年齢 35.5歳
64	こんにちは赤ちゃん事業の推進	こんにちは赤ちゃん事業(乳児家庭全戸訪問事業)を継続実施することにより、支援を必要とする家庭の早期発見に努めます。	健康増進課	・こんにちは赤ちゃん訪問 538件(対象 612件)
65	こんにちは赤ちゃん事業の推進	こんにちは赤ちゃん事業(乳児家庭全戸訪問事業)を継続実施することにより、支援を必要とする家庭の早期発見に努めます。	こども育成課	こんにちは赤ちゃん訪問事業により支援が必要な家庭については、関係機関で情報共有を行っている。

平成29年度実施状況	平成29年度実施状況の評価と課題等	事業継続・見直し方針
<p>①『出石永楽館狂言観賞教室』学校公演  子ども参加型演劇『サンタクロース会議』学校公演  おでかけ訪問コンサート  音楽レクチャー  バレンタインピアノコンサート  ひぼこ文化の祭典  仕舞体験教室  大阪音楽大学吹奏楽団演奏会  豊岡ブラスフェスタ2017  ブラックボトムブラスバンド</p> <p>②第68回豊岡市美術展  第21回伊藤清永賞こども絵画展</p> <p>③まるごとモンゴル雛まつり（モン博）  （馬頭琴の演奏体験他）  子ども写生会やパステル画ワークショップの作品展（美術館）</p>	<p>【評価】  ・狂言鑑賞教室、クラシック音楽の観賞や参加型演劇など、質の高い文化芸術の鑑賞や、体験する機会の充実につながった。  ・公募展の開催を通じ、子どもたちが作品を創作し発表する場として定着している。  ・市立ミュージアムでは、施設の特色や魅力を伝えると共に、ワークショップを通じて、豊岡だからこそできる探求的な学びにつながっている。</p> <p>【課題】  ・今後も、実施内容を精査し、継続してより効果的に芸術文化に触れるなどの機会を設けていくことが必要である。  ・市立ミュージアムでは、子どもたちのニーズを把握すると共に、展示内容やワークショップの質を向上させていく必要がある。</p>	継続
<p>・チャレンジデー  ・交流スポーツ大会</p>	<p>【評価】  各クラブでの活動、校区対抗チャレンジデー等のイベントのいずれも積極的なクラブとそうでないクラブの二極化が見られる。</p> <p>【課題】  少子化によりチームスポーツの実施が難しくなっているクラブが出てきている。</p>	継続
<p>両事業について、平成27年度から事業実施要項を一部改正し実施している（少子化等により年齢区分を細かく分けると参加親子の数が集まらないなどの事情により）。  0～5歳の乳幼児・保護者を対象とした交流活動事業を子育て中の保護者に委託形式で実施することにより、乳幼児期からのしつけや豊かな心を育む家庭教育の充実をめざして、親子や地域住民の自発的な学習活動を促進し、もって親子の豊かな人間関係を築き、人としてのあり方や社会性を学ぶ活動を行っている。</p> <p>・乳幼児親子交流(0～3歳児対象) 13教室開設  ・幼児親子活動(3～5歳児対象) 8教室開設  ・地域親子活動(0～5歳児対象) 6教室開設  ※いずれの教室も地区公民館単位で開設している。</p>	<p>【評価】  在宅で子育てしている親子にとって交流や学びの貴重な機会となっている。また子どもたちにとっても貴重な集団活動を経験する機会となっている。</p> <p>【課題】  保護者に委託という形式であり、又、各地区公民館からコミュニティ組織に変わったことや、働く女性の増加、少子化の影響があり参加人数の確保が難しい地域があるなど、時代にあった事業の見直しが必要がある。</p>	継続
<p>・助成件数 7,022件  ・助成実人員 907人(7.7件/人)  ・助成額 38,687千円</p>	<p>【評価】  件数、助成額は前年度より減少しているが、妊婦の健康管理のため、事業の継続は必要である。</p> <p>【課題】  引き続き制度の周知に努め、受診率の向上を図る。</p>	継続
<p>・妊婦訪問105件 妊婦への面談又は電話相談156件  ・新生児訪問 535件  ・こんにちは赤ちゃん訪問 534件</p>	<p>【評価】  養育支援ネット等の医療機関との連携システムが定着し、支援の必要な方へ適切な時期に支援が可能となりつつある。  課題のある妊婦の情報を医療機関と共有するため、養育支援ネットに妊婦用の様式を作成</p> <p>【課題】  妊娠中の訪問(電話を含む)、新生児訪問をすべての対象者に実施し、課題の把握に努める事をすすめる。</p>	継続
<p>・助成件数 70件  ・助成額 10,789千円  ・申請者平均年齢 35.7歳</p>	<p>【評価】  初回申請の件数が増加していることから、制度の周知が進みつつあるが、申請者の平均年齢が僅かに上昇しており、若年層へのさらなる周知のため事業継続の必要性を感じる。</p> <p>【課題】  助成対象となった治療による出生数などの検証方法を検討する必要がある。</p>	継続
<p>・こんにちは赤ちゃん訪問 534件(対象 586件)</p>	<p>【評価】  事業が定着しており、継続支援の必要な家庭の状況などの情報が届くなど連携が整い、必要な方は養育支援訪問などサービスへつながることができつつある。</p> <p>【課題】  不在の家庭が多く、訪問しても面接が出来ない場合がある。対象者へ事業の周知が必要。</p>	継続
<p>こんにちは赤ちゃん訪問事業により支援が必要な家庭については、関係機関で情報共有を行っている。  ・実施件数 534件(対象 586件)</p>	<p>【評価】 民生児童委員の協力を得て、生後4か月までの新生児家庭訪問を実施し、支援が必要と思われる家庭については関係機関に訪問時の情報をつないでいる。</p> <p>【課題】 家庭を訪問しても会えない場合がある。</p>	継続

番号	施策名	施策の概要	担当課	平成28年度実施状況
66	乳幼児健診の充実	4か月児・7か月児・1歳6か月児・3歳児を対象とした健診の内容の充実に努め、発達確認や健康保持・増進、疾病・虐待の早期発見、親子同士の交流など、育児支援の役割も果たせるよう健診の充実と受診率の向上に努めるとともに、未受診者に対しての、フォローに努めます。	健康増進課	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理士の相談を1歳6か月・3歳児健診で実施</li> <li>未受診者に関しては、再度案内を行い受診を勧め、未受診者に対しては、園担当課とも連携し、状況確認を行う。訪問等でのフォローも実施。</li> <li>H28乳幼児健診受診率 <ul style="list-style-type: none"> <li>4か月児健診 99.8%</li> <li>1歳6か月児健診 98.2%</li> <li>3歳児健診 99.4%</li> </ul> </li> </ul>
67	新生児・乳幼児の訪問指導の充実	家庭を訪問して育児に関する相談や保健指導などを行い、親子が健やかに生活できるよう育児不安の解消、相談・指導内容の充実や関係機関との連携の強化に努めます。	健康増進課	<ul style="list-style-type: none"> <li>妊婦訪問47件</li> <li>新生児・産婦訪問 486件</li> <li>こんにちは赤ちゃん訪問 538件</li> </ul>
68	育児指導・保健相談の充実	子育てに関する情報提供や発達確認及び育児に関する相談に応じ、保護者の育児不安の軽減に努めています。多くの人に利用してもらえるように、広報・普及に努めます。	健康増進課	<ul style="list-style-type: none"> <li>すくすく教室(1歳児) 12回 264人 参加率42.8%</li> <li>にこにこ教室(2歳児) <ul style="list-style-type: none"> <li>豊岡会場 9回</li> <li>日高会場 4回</li> <li>出石会場 3回</li> <li>参加者合計 356人 参加率59.9%</li> </ul> </li> </ul>
69	「なかよし広場(母親交流)」への参加の推進	子育てへのイメージを予め把握できるように、乳幼児を持つ親子が交流するなかよし広場などへ、妊婦やその夫が参加するように努めます。	健康増進課	<ul style="list-style-type: none"> <li>なかよし広場 6会場42回 976組 2,163人 妊婦8人が参加</li> </ul>
70	「なかよし広場(母親交流)」への参加の推進	子育てへのイメージを予め把握できるように、乳幼児を持つ親子が交流するなかよし広場などへ、妊婦やその夫が参加するように努めます。	こども育成課	<ul style="list-style-type: none"> <li>なかよし広場 各子育てセンターにおいて、おおむね3才までの乳幼児のいる保護者と妊娠中の方が情報交換などの交流ができる場として実施。(延べ2,409人参加) <ul style="list-style-type: none"> <li>*子育て総合センター なかよし広場…月1回 なかよしグングン広場…3回</li> <li>*5子育てセンター 年6回</li> </ul> </li> <li>マタニティママ交流広場 年3回、子育て総合センターにおいて、妊娠中の方と先輩ママの交流広場として実施。(延べ)</li> </ul>
71	離乳食講習会の充実	離乳食に関する正しい知識の普及と相談、保護者の仲間づくりのための場の提供や食育を通じた交流に努めます。	健康増進課	<ul style="list-style-type: none"> <li>4か月児健康診査にて、正しい知識の習得を目指し、健康教育・相談及び離乳食のデモンストレーションを実施。</li> <li>7か月児健康診査にて、月齢に合った離乳食の進め方の実践ができるよう、健康教育・相談及び離乳食の試食を実施。</li> </ul>
72	幼児期からの生活習慣病予防対策の推進	幼児期からの適切な食品の選択、バランスの良い食生活への指導の充実に図り、家族ぐるみで生活習慣病の予防に取り組めるよう推進します。また、幼児期の偏食など食生活改善の支援を行います。	健康増進課	<ul style="list-style-type: none"> <li>1歳6ヶ月から3歳未満を対象に、食の悩みをもつ幼児を対象とした「ばくばく教室」を実施。</li> <li>3歳以上の幼児とその保護者を対象に、食育と子育て支援を目的とした「わくわくクッキング教室」を実施。</li> <li>3歳児健康診査にて、朝食のPR。食育レシピ集の配布。</li> <li>保育園・幼稚園・認定こども園での歯科指導時に食育指導を同時開催。</li> <li>要望に応じて、乳幼児サークル等へ食育講話を実施。(健康づくり応援隊にて講師派遣)</li> </ul>
<b>(2) 子どもの医療体制等の充実</b>				
73	小児医療の確保・充実	安心して子どもを育てられる環境を整備するために、小児科医や小児救急医療体制の確保・充実について、公立豊岡病院組合や医師会と連携した取り組みを進めるとともに、県への要望に努めます。	健康増進課	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師による小児救急セミナーの開催(1回)</li> <li>市立休日急病診療所の開設(診療日69日)</li> <li>公立豊岡病院地域連携小児休日救急診療の実施(毎月2回)</li> </ul>

平成29年度実施状況	平成29年度実施状況の評価と課題等	事業継続・見直し方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>心理士の相談を1歳6か月・3歳児健診で実施</li> <li>未受診者に関しては、再度案内を行い受診を勧め、未受診者に対しては、園担当課とも連携し、状況確認を行う。訪問等でのフォローも実施。</li> <li>H29乳幼児健診受診率（前年度の未受診者含む） <ul style="list-style-type: none"> <li>4か月児健診 97.6%</li> <li>1歳6か月児健診 100.3%</li> <li>3歳児健診 97.8%</li> </ul> </li> </ul>	<p>【評価】 乳幼児健診の未受診者に対して、訪問等で受診勧奨を実施しフォローを実施している。</p> <p>【課題】 乳幼児健診の未受診者については、リスクのある家庭が多い現状にあるため関係機関とより一層の連携によるアプローチが必要となる。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>妊婦訪問105件 妊婦への面談又は電話相談156件</li> <li>新生児訪問 535件</li> <li>こんにちは赤ちゃん訪問 534件</li> </ul>	<p>【評価】 ・すべての妊産婦に対して、訪問指導または電話を実施し、相談・支援を実施。 ・医療機関等との連携も整い、スムーズな連携がとれつつある。</p> <p>【課題】 出産後早い時期に新生児訪問を実施する事が望ましいが、出生の把握が出来る時期にタイムラグがあり、出産後早期に把握できる体制を整備しているが、より一層の充実をはかる。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>すくすく教室(1歳児) 12回 237人 参加率39.8%</li> <li>にこにこ教室(2歳児) <ul style="list-style-type: none"> <li>豊岡会場 9回</li> <li>日高会場 4回</li> <li>出石会場 3回</li> </ul> </li> <li>参加者合計 362人 参加率58.6%</li> </ul>	<p>【評価】 乳幼児健診での生活面、栄養面の経過観察の場として貴重な場と位置付けている。</p> <p>【課題】 乳幼児健診とは異なり、育児教室のためゆったりとした雰囲気での相談が出来る場となっている。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>なかよし広場 6会場41回 874組 1,960人 妊婦5人が参加</li> </ul>	<p>【評価】 ・乳幼児の保護者が交流する貴重な場となっている。</p> <p>【課題】 ・身近に相談できる場として活用して頂けるように周知が必要。 ・健康相談の一貫と位置づけて、保健師・栄養士・歯科衛生士・看護師が出務。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>なかよし広場 各子育てセンターにおいて、おおむね3才までの乳幼児のいる保護者と妊娠中の方が情報交換などの交流ができる場として実施。（延べ2,116人参加）</li> <li>*子育て総合センター なかよし広場…月1回 なかよしグングン広場…年3回</li> <li>*5子育てセンター 年6回</li> <li>・マタニティ&amp;ベビー交流会 年3回、子育て総合センターにおいて、妊娠中の方と先輩ママの交流広場として実施。（延べ89人参加）</li> </ul>	<p>【評価】 母親同士の交流や先輩ママからの経験談・アドバイスなどが、新米ママの出産への不安、子育てへの不安を和らげる貴重な機会となっている。また、親としての実感、責任感を醸成している。</p> <p>【課題】 すべての乳幼児をもつ親子や妊婦に子育て支援の場があることを知ってもらうため、効果的な広報、周知方法の検討。 大人数の中に入ることが苦手な母親（子）が参加しやすくなるような工夫や配慮の検討。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>4か月児健康診査にて、正しい知識の習得を目指し、健康教育・相談及び離乳食のデモンストレーションを実施。</li> <li>7か月児健康診査にて、月齢に合った離乳食の進め方の実践ができるよう、健康教育・相談及び離乳食の試食を実施。</li> </ul>	<p>【評価】 乳児健診で離乳食を具体的に指導する事により、母親の疑問を具体的に知る場ともなっている。</p> <p>【課題】 小グループでの指導が中心である事を活かし、保護者の仲間づくりの場となるよう支援する事が必要。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>1歳6ヶ月から3歳未満を対象に、食の悩みをもつ幼児を対象とした「ぱくぱく教室」を実施。</li> <li>3歳以上の幼児とその保護者を対象に、食育と子育て支援を目的とした「わくわくクッキング教室」を実施。</li> <li>3歳児健康診査にて、朝食のPR。食育レシピ集の配布。</li> <li>保育園・幼稚園・認定こども園での歯科指導時に食育指導を同時開催。</li> <li>要望に応じて、乳幼児サークル等へ食育講話を実施。（健康づくり応援隊にて講師派遣）</li> </ul>	<p>【評価】 様々な場で食育講座。実習のある参加型の教室の開催、パンフレットを配付する事により食の大切さを周知する場となっている。</p> <p>【課題】 教室の参加者に対しての指導に合わせて、家族ぐるみでの生活習慣の改善になる指導をより一層目指す事が必要。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>医師による小児救急セミナーの開催(3回)</li> <li>市立休日急病診療所の開設(診療日69日)</li> <li>公立豊岡病院地域連携小児休日救急診療の実施(毎月2回)</li> </ul>	<p>【評価】 休日の小児医療の確保は出来ている。</p> <p>【課題】 H29年度から市立診療所の医師が講師となりセミナーを複数回開催することができたが、地域の医師の高齢化のため休日急病診療所に出務する医師確保が難しくなる。</p>	継続

番号	施策名	施策の概要	担当課	平成28年度実施状況
74	産科医療の確保・充実	安心して子どもを産める環境を整備するために、産科医や周産期医療の確保・充実について、公立豊岡病院組合や医師会と連携した取り組みを進めるとともに、県への要望に努めます。	健康増進課	・但馬こうのとり周産期医療センターのソフト面の充実を図るため、但馬3市2町及び豊岡病院組合が負担金を拠出し、医師確保対策事業等を実施。 ・医師等確保対策事業として、周産期医療研究資金の貸付けのほか、看護職員奨学金の加算貸与、在職職員の助産師養成施設就学資金支援、魅力アップ事業として、医師・助産師・看護師の実地研修への参加支援を実施。
75	乳幼児等医療費助成事業の普及・啓発	0歳～小学3年生を対象に医療費の助成を行うことにより、保護者の経済的負担の軽減を図り、安心して子育てできる環境づくりを行うため、制度の普及・啓発に努めます。	市民課	◇支給 件数 77,608件 ◇支給医療費 113,351,062円 ・出生や転入時等に窓口等で制度について案内 ・受給者証更新前に広報で案内 ・随時窓口にてパンフレットを手渡し ・HPによる啓発
76	こども医療費助成事業の普及・啓発	小学4年生～中学3年生を対象に医療費の助成を行うことにより、保護者の精神的・経済的負担の軽減を図り、安心して子育てできるよう制度の普及・啓発に努めます。	市民課	◇支給 件数 27,842件 ◇支給医療費 29,754,607円 ・小学4年到達時に郵送で案内 ・転入時に窓口等で制度について案内 ・随時窓口にてパンフレットを手渡し ・受給者証更新前に広報で案内 ・HPによる啓発
<b>5. 社会的養護、支援の必要な子どもの支援</b>				
<b>(1) 支援の必要な子どもの相談体制の充実</b>				
77	家庭児童相談室の充実	家庭児童相談室が、より利用されるよう、学校、幼稚園、保育所、こども家庭センターをはじめとする関係機関や、主任児童委員などとの連携の強化を図ります。また、相談員の研修の機会の充実とともに、相談体制や職員体制の充実に努めます。	こども育成課	・家庭児童相談の実施・・・相談実件数 262件 ・家庭相談員及びこども支援センター職員等を対象に、県児童虐待対応専門アドバイザーを招聘し、児童虐待への対応等について指導・助言を受けた。 開催日 H28.6.8、9.20 講師 一般社団法人トータルハーモニー 代表理事 稲垣 裕見子 氏 ・児童福祉司任用資格講習の受講（家庭相談員1名）
78	スクールカウンセラーの活用	学校に配置されているスクールカウンセラーを、不登校生徒のみならず、保護者、教職員への専門的な相談や指導と、学校と連携した活動など幅広い活用に努めます。	こども教育課	・市費スクールカウンセラー2名配置。特別な支援を要する児童・生徒の支援、教職員の支援、教職員の研修会実施、特別な支援を要する児童・生徒の保護者に対する教育相談の実施。 ・県スクールカウンセラーの活動範囲の弾力化を受け、近隣の小学校支援実施。
79	小・中学校の就学援助	経済的な理由で、公立小・中学校の就学が困難な家庭に、学用品費・通学用品費・学校給食費など学習に必要な費用の一部援助を継続するとともに、制度の広報・普及に努めます。	こども教育課	経済的な理由で、公立小・中学校の就学が困難な家庭に、学用品費・通学用品費・学校給食費・修学旅行費などの援助を継続して行った。 市広報誌掲載や、入学説明会での保護者への制度案内資料を配布するなど、周知を図った。
80	民生委員・児童委員（主任児童委員）活動における相談体制の充実	地域の身近な相談窓口である民生委員・児童委員（主任児童委員）の活動について、子育て中の保護者に対して周知・啓発に努めます。また、研修など、委員自身の資質向上にも努めます。	社会福祉課	生後4ヶ月までの新生児がいる家庭を対象に、該当区域を担当する民生委員児童委員が訪問し、自己紹介と子育て情報の提供（パンフレットの配布）を行った。 また、小中学校訪問・懇談会を行い、学校側との情報交換や課題発見に努めた。 とよおか・こどもまつりにスタッフとして参加し、子育て中の親子と触れ合いながら異世代交流を行った。
<b>(2) 一時的に養護が必要な子どもの支援</b>				
81	関係機関と連携した要保護児童・生徒への支援	さまざまな理由により保護が必要であったり養育が困難な子どもの保護を図るため、児童福祉施設などへの入所措置について、県こども家庭センターとの連携に努めます。	こども育成課	児童養護施設への入所措置権限は県こども家庭センターにあるが、児童の入所後の家庭支援、家庭復帰後の支援は、県こども家庭センターと連携して対応している。 ・家庭復帰委員会 1回開催（H28.12.20） ・県・市町・市町教委連絡会議（H28.5.26）

平成29年度実施状況	平成29年度実施状況の評価と課題等	事業継続・見直し方針
<p>・但馬こうのとり周産期医療センターのソフト面の充実を図るため、但馬3市2町及び豊岡病院組合が負担金を拠出し、医師確保対策事業等を実施。</p> <p>・医師等確保対策事業として、医師豊岡病院見学旅費の助成のほか、魅力アップ事業として、医師・助産師・看護師の実地研修への参加支援や医師当直応援支援等を実施。</p>	<p>【評価】 H28年度同様、ソフト面で支援できた。</p> <p>【課題】 引き続き但馬地域の周産期医療体制の確保に努める。</p>	継続
<p>◇支給 件数 78,164件 ◇支給医療費 122,610,637円</p> <p>・出生や転入時等に窓口等で制度について案内 ・受給者証更新前に広報で案内 ・随時窓口にてパンフレットを手渡し ・HPによる啓発</p>	<p>【評価】 出生・転入時に制度の案内を行っている。その場で受給者証の手続きをしない場合は、簡易な案内文書を渡し、周知に努めている。</p> <p>【課題】 情報発信の工夫</p>	継続
<p>◇支給 件数 26,944件 ◇支給医療費 33,613,420円</p> <p>・小学4年到達時に郵送で案内 ・転入時に窓口等で制度について案内 ・随時窓口にてパンフレットを手渡し ・受給者証更新前に広報で案内 ・HPによる啓発</p>	<p>【評価】 乳幼児等医療費受給者で4月に新4年生になる者について、制度及び申請の案内を行っており、周知に努めている。</p> <p>【課題】 情報発信の工夫</p>	継続
<p>・家庭児童相談の実施・・・相談実件数 326件</p> <p>・要対協調整担当者研修（調整担当職員1名） ・家庭相談関係新任職員研修（新任職員1名） ・子ども家庭支援担当職員特別研修（家庭相談員1名）</p> <p>◇豊岡市児童虐待防止講演会の開催 民生児童委員、家庭児童相談員、子育てセンター指導員等を対象に講演会を開催した。</p> <p>・開催日 H29.11.20 ・テーマ 子育ては親育て～気になる家庭の見守り方について</p> <p>・講師 トータルハーモニー 武田 さゆり 氏 ・参加者数 234人</p>	<p>【評価】 不登校・発達障害・児童虐待・子育てに悩んでいる保護者等の相談窓口となっている。在籍している学校・園など各関係機関とも連携し、子どもとその家庭を支援している。</p> <p>【課題】 共働き世帯やひとり親世帯の増加など家庭の状況が大きく変わる中で、子育ての負担感の解消を図るために児童虐待につながらないように相談体制の充実に努める。</p>	継続
<p>・市費スクールカウンセラー2名配置。特別な支援を要する児童・生徒の支援、教職員の支援、教職員の研修会実施、特別支援を要する児童・生徒の保護者に対する教育相談の実施。</p> <p>・県スクールカウンセラーの活動範囲の弾力化を受け、近隣小学校支援実施</p>	<p>【評価】 ・児童生徒の実態把握と情報共有の促進 ・不登校児童生徒に係る未然防止、早期発見、早期対応の充実</p> <p>【課題】 ・学校における組織的な対応のための体制強化 ・不登校児童生徒の増加 ・不登校傾向を持つ児童生徒の背景の多様化と複雑化 ・支援を要する児童生徒の増加</p>	継続
<p>経済的な理由で、公立小・中学校の就学が困難な家庭に、学用品費・通学用品費・学校給食費・修学旅行費などの援助を継続して行った。</p> <p>また、新入学児童生徒学用品費の入学前支給を実施した。</p> <p>市広報、教育委員会だよりや、児童生徒を通じたチラシ配布等、制度の周知を図った。</p>	<p>【評価】 ・学校、こども支援センター等と連携し、支援が必要な家庭に対して制度の案内を行い、実際の就学援助につなげた。</p> <p>・新入学児童生徒学用品費の入学前支給と、就学援助システム導入を行うことができた。</p> <p>【課題】 就学援助システムを軌道にのせ、適切な就学援助を行うこと。</p>	継続
<p>生後4ヶ月までの新生児がいる家庭を対象に、該当区域を担当する民生委員児童委員が訪問し、自己紹介と子育て情報の提供（パンフレットの配布）を行った。</p> <p>また、小中学校訪問・懇談会を行い、学校側との情報交換や課題発見に努めた。</p> <p>とよおか・こどもまつりにスタッフとして参加し、子育て中の親子と触れ合いながら異世代交流を行った。</p>	<p>【評価】 家庭や学校を訪問することで、現状の把握や民生委員児童委員活動の周知等を行うことができた。</p> <p>【課題】 学校訪問・懇談会は、依頼のある学校のみ行っているため、全学校の現状を把握できていない状況である。</p>	継続
<p>児童養護施設への入所措置権限は県こども家庭センターにあるが、児童の入所後の家庭支援、家庭復帰後の見守りは、県と市が連携して対応している。</p> <p>・家庭復帰委員会 2回開催（7/14 12/19） ・県・市町・関係機関連絡会議（8/23 10/17 10/31 11/29）</p>	<p>【評価】 県こども家庭センターと連携をとりながら対応している。また、児童養護施設等から家庭復帰する場合は、子どもが家庭復帰した後に、県の家庭訪問時に同行訪問等も行っている。</p> <p>【課題】 家庭復帰後は、県こども家庭センターと市の役割分担について家庭の状況を踏まえて調整する必要がある。</p>	継続

番号	施策名	施策の概要	担当課	平成28年度実施状況
82	養育支援訪問事業の推進	養育支援が特に必要な家庭に対して、その居宅を訪問し、養育に関する指導・助言等を行う。	健康増進課	養育支援訪問事業実施回数・・・0回
83	養育支援訪問事業の推進	養育支援が特に必要な家庭に対して、その居宅を訪問し、養育に関する指導・助言等を行う。	こども育成課	養育支援訪問事業実施回数・・・0回
84	子育て短期支援事業の推進	保護者の疾病等の理由により、家庭において養育を受けることが一時的に困難となった児童を児童養護施設等に入所させ、必要な保護を行う。	こども育成課	子育て短期支援（ショートステイ）事業の実施 ・述べ利用児童数 2人 ・延べ利用日数 6日 ・利用施設（委託） 児童養護施設「若草寮」（朝来市）
85	里親制度の普及・啓発	保護者と一緒に生活することが困難な子どもの健やかな成長を支える里親制度の広報・普及啓発に努めます。	こども育成課	10月の里親制度啓発月間に、市広報に啓発記事を掲載した。
86	民生委員・児童委員との連携の強化	民生委員・児童委員との連携を強化し、要保護児童の見守りや支援などの実施に努めます。	こども育成課	・要保護児童対策協議会個別会議の開催（37回、54件）
<b>(3) 児童虐待の防止</b>				
87	児童虐待防止ネットワークの強化	児童虐待の未然防止から早期発見・早期対応、さらには被虐待児童の適切な保護に至るまでの総合的、組織的な対応を推進するため、関係機関や関係団体などで構成される「豊岡市要保護児童対策協議会」の活動を強化します。	こども育成課	・豊岡市要保護児童対策協議会において関係機関との連携強化を図った。 ◇代表者会議・研修会（H28.6.6） ◇実務者会議（3回開催） ◇個別支援会議（54回開催） ・豊岡市児童虐待防止講演会の開催 民生児童委員、家庭児童相談員、子育てセンター指導員等を対象に講演会を開催した。 ◇開催日 H28.8.26 ◇テーマ①「地域で子育て支援」②「地域で子どもを守る防犯対策」 ◇講師①子育て総合センター 永田 由紀氏②関西国際大学 教授 西岡 敏成氏 ◇参加者数 76人
88	こんにちは赤ちゃん事業の推進	(再掲)	こども育成課 健康増進課	
89	虐待の早期発見・早期対応に向けた予防啓発の推進	育児について相談しやすい窓口づくりなど未然防止に努めるとともに、虐待を発見した場合の通報義務など地域住民に向けた啓発事業に取り組み、虐待の早期発見・早期対応に努めます。	こども育成課	11月の児童虐待防止月間に、市広報に啓発記事を掲載するとともに、学校園、公共施設に啓発ポスターやパンフレットを配布した。
90	家庭児童相談員、学校園の教職員・保育士等に対する研修の充実	幼稚園や保育所、学校においても、虐待の早期発見に結びつくよう教職員・保育士などに対する研修の充実に努めます。	こども教育課	児童虐待に至る要因となる発達障害や不登校など子どもの発達についての理解を深めるために、学校園の教職員等を対象にこども支援センター公開講座を開催した。
91	家庭児童相談員、学校園の教職員・保育士等に対する研修の充実	幼稚園や保育所、学校においても、虐待の早期発見に結びつくよう教職員・保育士などに対する研修の充実に努めます。	こども育成課	家庭児童相談員、学校園、放課後児童クラブの職員を対象に「どならない子育て練習法」を紹介し、親子の関わりを「グッドサイクル」にする手法研修した。 開催日 H28.11.9 テーマ 「どならない子育て練習法」 子育て支援者研修会 講師 野口 啓示 氏 (児童養護施設神戸少年の町野口ホーム職員) 参加者数 52人

平成29年度実施状況	平成29年度実施状況の評価と課題等	事業継続・見直し方針
養育支援訪問事業実施回数 専門的相談支援 保健師：妊産婦7人のべ19回実施 助産師：妊産婦7人のべ36回実施 家事援助（サポーター派遣） 2人のべ19回	<b>【評価】</b> 支援の導入について、アセスメントシートを活用して課題の明確化を行い、関係者で共有することを心がけている。 <b>【課題】</b> 養育支援訪問の必要な家庭に必要な回数を実施しようとするが、利用家庭の理解がえられにくい。	継続
実施期間 平成29年10月1日～ 委託先 専門的相談支援…助産師 1名 健康増進課地区担当保健師 家事・育児援助…豊岡市社会福祉協議会 利用実績 実利用人数：6人 利用時間数：152時間	<b>【評価】</b> 養育支援を特に必要とする家庭に助産師・保健師・ヘルパーが訪問し、指導・助言を行うことにより、子どもに対し適切な養育が実施できた。子どもの安否確認や母の精神的なフォローにも有効であった。 <b>【課題】</b> 養育支援を必要とする家庭について、委託先及び健康増進課と協議・情報共有など十分な連携をとる必要がある。	継続
子育て短期支援（ショートステイ）事業の実施 ・利用実績 2歳未満児 2日（実人数1人） 2歳以上児 29日（実人数3人） ・利用施設（委託） 児童養護施設「若草寮」（朝来市） 乳児院「くれよん」（朝来市）	<b>【評価】</b> 児童養護施設や乳児院で、一時的にこどもを預かることで保護者の子育ての負担感を軽減することとなった。 <b>【課題】</b> 事務手続きや施設利用日の変更などや子どもが急病になった時の対応など、委託先と運用面で細かな調整が必要である。	継続
10月の里親制度啓発月間に、市広報に啓発記事を掲載した。	<b>【評価】</b> 研修会等では里親制度の啓発チラシ等を配布し、里親制度の普及啓発を行った。 <b>【課題】</b> 家庭的な雰囲気の中で子どもを養育できる「里親」制度の充実を図るため、引き続き啓発していく。	継続
・要保護児童対策協議会個別会議の開催（48回、62件）	<b>【評価】</b> こんにちは赤ちゃん訪問事業をはじめ、支援を必要とする家庭を早期発見し、地域での見守り等で連携を図っている。 <b>【課題】</b> 民生児童委員が訪問を行っても保護者に出会えない家庭もある。民生児童委員と関係機関との間で情報共有を密にする必要がある。	継続
・豊岡市要保護児童対策協議会において関係機関との連携強化を図った。 ◇代表者会議・研修会（H29.7.24） ◇実務者会議（3回開催） ◇個別支援会議（48回開催）	<b>【評価】</b> 要保護家庭等について、要保護児童対策協議会個別支援会議、実務者会議で関係機関と情報共有を図るとともに、それぞれの機関の専門的機能を生かして家庭への対応に努めた。 <b>【課題】</b> 関係機関が支援を継続している家庭について、実務者会議で定期的に進行管理を行いながら、家庭の状況等の変化にも適切に対応していけるよう努める。	継続
/		
11月の児童虐待防止月間に、市広報に啓発記事を掲載するとともに、学校園、公共施設に啓発ポスターやパンフレットを配布した。	<b>【評価】</b> 児童虐待防止月間に啓発ポスターやパンフレットを関係機関に配布し啓発に努めている。 <b>【課題】</b> 家庭での「しつけ」と「虐待」の違い、子どもへの関わり方等を保護者に理解してもらえよう、啓発を続けていく。	継続
児童虐待に至る要因となる発達障害や不登校など子どもの発達についての理解を深めるために、学校園の教職員等を対象にこども支援センター公開講座を開催した。 ・公開講座「子どもの睡眠と生活リズム講演会」 ・開催日、会場 H29.12.10（日） 豊岡市民プラザ ・講師 国立青少年教育振興機構理事長 鈴木みゆき氏 瀬川記念小児神経学クリニック理事長 星野恭子氏	<b>【評価】</b> ・子どもの睡眠障害が、家庭や学校園での生活に及ぼす影響についての理解を深め、学校園等で子ども達に睡眠の大切さを伝えていく。 <b>【課題】</b> ・子どもの睡眠が、発達や心身に与える影響を踏まえ、学校園と家庭とが共通理解したうえで、継続した取り組みが必要。	継続
児童虐待に至る要因となる発達障害や不登校など子どもの発達についての理解を深めるために、学校園の教職員等を対象に、研修会・講座等を開催した。 ◇研修会「子育ては親育て～気になる家庭の見守り方について～」 H29.11.20 豊岡市民プラザ 講師：トータルハーモニー 武田 さゆり氏 ※児童虐待防止講演会として開催 ◇子ども理解研修講座 全体研修会 5.6.3月 各グループ研修会 7～1月まで月1回 （プライマリー11人、アサーションAB20人、傾聴5人）	<b>【評価】</b> 学校園等の教職員が、子どもの発達についての理解を深め、児童虐待の可能性があったり、子育ての悩みを抱えている保護者へ、適切にアドバイスができるようスキルアップを図った。 <b>【課題】</b> 共働き世帯やひとり親世帯の増加など家庭の状況が大きく変わる中で、不登校・発達障害・児童虐待など子どもや家庭が抱えている課題を把握し、子どもに関わる関係機関の職員が、「子どもの最善の利益」を考えて行動できるよう、引き続き研修の充実を図る。	継続

番号	施策名	施策の概要	担当課	平成28年度実施状況
<b>(4) 障害のある子どもの支援</b>				
92	児童発達支援の充実	障害のある未就学の児童に対して、日常生活における基本的な動作の指導、知識、技能の付与、集団生活への適応訓練等を行います。 また、関係機関との連携のもとに、医療の提供や障害児の療育、相談支援など、家族を含む総合的な支援体制の一層の充実を図ります。	社会福祉課	地域の療育の拠点である北但広域療育センターにおいて幼児期から一貫した療育指導・訓練を提供。他に市内の4事業所（つくし、出石精和園、レインボーハウス、たじま聴覚障害者センター）でサービス提供を行っている。
93	放課後等デイサービスの実施	障害のある就学中の児童に対して、放課後や夏休み等の長期休暇中の場所の確保に努めるとともに、生活能力向上のための訓練等を行います。	社会福祉課	放課後等デイサービス事業所において、障害児の受け入れを行い、必要な支援を行っている。H28年度は1箇所事業所が増え、6事業所となった（ひみつきち、レインボーハウス、北但広域療育センター、出石精和園、つくし、たじま聴覚障害者センター）。
94	保育所等訪問支援の実施	障害のある児童や保育所等の職員に対して、障害のある児童が集団生活になじめるように専門家が助言を行い、社会生活への適応を支援します。	社会福祉課	北但広域療育センターから訪問支援員が保育所等に訪問し、専門的な支援を行っている。
95	障害児相談支援の実施	障害児通所支援サービスを利用する際の障害児支援利用計画を作成後、定期的なモニタリングを実施します。	社会福祉課	作成した障害児支援利用計画をもとに、定期的なモニタリングを実施している。 H29. 3. 31時点 障害児通所支援サービス利用者 256名 うち支援利用計画作成 256名 (100%)
96	サポートファイルの作成	ライフステージに応じた継続的な支援を行うため、小学校入学時に障害児の情報を時系列に集積し、支援に必要な情報を学校等関係機関で共有し、一貫した支援を行う。	社会福祉課	豊岡市発達障害児等支援連絡会議を3回実施し、サポートファイルの効果的な活用について協議を行った。 サポートファイルに関するアンケート実施、高校への引継ぎに向けた取り組み 現利用者数 計304名 新規作成63名
97	障害児居宅支援サービス事業の充実	障害児や保護者が自ら選択したホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイサービスを利用し、家族とともに生活できる事業の充実に努めます。	社会福祉課	障害児支援利用計画に従い、障害者総合支援法に基づく介護給付等の支給、児童福祉法に基づく障害児通所給付費等の支給及び地域生活支援事業に基づく居宅生活支援事業の支給を決定している。
98	育児支援教室の充実	健診などにおいて、継続して支援を必要とする子どもへ、親子の関わり方を中心とした集団指導や個別指導を実施し、子どもの心身の発達を促す支援の充実に努めます。	健康増進課	こがもらんど 豊岡会場19回 延べ35組 338人が参加
99	豊岡市こども支援センターにおける発達に関する相談の実施	(再掲)	こども教育課 こども育成課	
<b>(5) ひとり親家庭の自立支援</b>				
100	母子・父子自立支援体制の強化	養育費の取り決めのための情報提供、就労支援やDV等について、的確な相談にのれるよう、母子・父子自立支援員の研修の機会を充実するとともに、体制の強化に努めます。	社会福祉課	兵庫県の実施する母子・父子自立支援員研修とDV研修に参加している。 ・母子・父子自立支援員研修（養父市、2月、1名） ・DV研修（神戸市、8月、2月、1名）
101	相談支援体制の充実	ひとり親家庭を対象とした相談業務を充実させるため、母子・父子自立支援員と関係機関の連携強化に努めます。	社会福祉課	・離婚、ひとり親、DV等相談実施 相談件数499件 ・教育委員会、警察等と連携 ・ハローワークとの就労支援

平成29年度実施状況	平成29年度実施状況の評価と課題等	事業継続・見直し方針
<p>地域の療育の拠点である北但広域療育センターにおいて幼児期から一貫した療育指導・訓練を提供。他に市内の4事業所（つくし、出石精和園、レインボーハウス、たじま聴覚障害者センター）でサービス提供を行っており、年度末には新たに1箇所事業所が開設した（そらまめはうす）。</p> <p>H30年度からの北但広域療育センターの指定管理更新に向けて児童発達支援の受け入れを拡大するための体制整備を行った。</p> <p>（現施設で行っていた放課後等デイサービスを旧奈佐幼稚園に移し、児童発達支援の定員を拡大することとした。）</p>	<p>【評価】 事業所数の増加、定員の拡大により、障害のある未就学児童の受け入れ体制が整った。</p> <p>【課題】 利用者の増加により障害児支援利用計画の新規作成が円滑に行えず、サービス利用まで大幅に日数を要するケースが増えている。</p>	継続
<p>放課後等デイサービス事業所において、障害児の受け入れを行い、必要な支援を行っている。H29年度は昨年同様、6事業所でサービス提供を行っており（ひみつきち、レインボーハウス、北但広域療育センター、出石精和園、つくし、たじま聴覚障害者センター）、年度末には新たに1箇所事業所が開設した（そらまめはうす）。</p> <p>H30年度の北但広域療育センター奈佐事業所開設に向け、旧奈佐幼稚園の改修を行った。</p>	<p>【評価】 新規希望者や就学前の児童発達支援利用者の就学による利用等、利用希望者が増えてきている。</p> <p>【課題】 「預り」目的ではなく、「療育」を受けると認識してもらう必要がある。</p> <p>事業所数は年々増加しているが、重症心身障害児の受入可能な事業所は限られており、放課後や長期休暇中の場の確保に苦慮されている状況がある。</p>	継続
<p>北但広域療育センターから訪問支援員が保育所等に訪問し、専門的な支援を行っている。</p> <p>なお、29年度は他業務と兼任であった上記訪問支援員が30年度より専任となった。</p>	<p>【評価】 登録者180人に対し延利用者数が124人となっており、1日平均0.3人にとどまっている。</p> <p>【課題】 北但広域療育センターはH30年度から支援員を専任としたため、保護者からの利用希望に対してより充実した対応を期待し、利用状況を注視する必要がある。</p>	継続
<p>作成した障害児支援利用計画をもとに、定期的なモニタリングを実施している。</p> <p>H30. 3. 31時点 障害児通所支援サービス利用者 271 名 うち支援利用計画作成 271 名(100%)</p>	<p>【評価】 サービス利用者に対する計画作成およびモニタリングは全例実施できているが、新規利用希望者への早急な対応が困難となっている。</p> <p>【課題】 サービス利用者の増加により相談支援専門員の業務負担が増加し、新規利用希望者への早急な対応が困難となっている。</p>	継続
<p>豊岡市発達障害児等支援連絡会議を3回実施し、サポートファイルの効果的な活用について協議を行った。</p> <p>高校でのファイルの活用状況の聞き取り実施、高校卒業に向けてのサポートファイルの活用について協議</p> <p>管理依頼している学校に対し記録作成等適切な運用を依頼</p> <p>市ホームページを活用しサポートファイルを周知</p> <p>現利用者数 364名 新規作成者70名</p>	<p>【評価】 計画に基づき概ね実施できている。</p> <p>【課題】 サポートファイルの周知は進んでいるがファイル活用の周知を図る必要がある。</p> <p>高校卒業後の活用方法について検討する必要がある。</p>	継続
<p>障害児支援利用計画に従い、障害者総合支援法に基づく介護給付等の支給及び地域生活支援事業に基づく居宅生活支援事業の支給を決定している。</p>	<p>【評価】 障害児支援利用計画を作成することで、適正な支給決定につながっている。</p> <p>【課題】 重症心身障害児の受け入れ先が少なく、長期休暇中は介護者への負担が大きい状況がある。</p>	継続
<p>こがもらんど 豊岡会場24回 延べ39組 438人が参加</p>	<p>【評価】 子育てセンタースタッフ、心理士、保育士、保健師が連携して教室を運営し、参加した児の特性に応じたかかわりを保護者が相談が出来る場となっている。</p> <p>【課題】 グループ指導が中心となるため、児への関わりについての保護者からの相談を聞く時間を充分取る事が出来ない事がある。</p>	継続
<p>兵庫県の実施する母子・父子自立支援員研修とDV研修に参加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母子・父子自立支援員研修（朝来市、12月、1名）</li> <li>・DV研修（神戸市、4月、5月、8月、各1名）</li> <li>・母子等福祉担当者研修（神戸市、12月、2名）</li> </ul>	<p>【評価】 計画に基づき、実施できている。</p> <p>【課題】 DV事案や複雑なケースも多く、対応手法も変化しているので、更にスキルアップを図る必要がある。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>・離婚、ひとり親、DV等相談実施</li> </ul> <p>相談件数 母子570件、父子45件、合計615件</p> <p>生活相談（離婚、DV、就労等）234件、児童相談80件、経済的相談（手当、貸付）301件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別事案ごとに教育委員会、警察等と連携し、対応している。</li> <li>・個別事業ごとにハローワークと連携して就労支援に取り組んでいる。</li> </ul>	<p>【評価】 計画に基づき、実施できている。</p> <p>【課題】 引き続き、連携の強化に努める。</p>	継続

番号	施策名	施策の概要	担当課	平成28年度実施状況
102	母子・父子自立のための情報提供の充実	両親の離婚は、子どもたちの環境にも大きな影響を与えます。離婚に至るまでに、母子・父子自立支援員などに相談することについての啓発に努めます。 また、相談時において自立支援に必要な情報提供の充実に努めます。	社会福祉課	・相談時にパンフレットで自立支援につながる制度等の説明をし、情報提供している。 ・HP、広報等で相談や制度について啓発
103	母子家庭等医療費助成事業の普及・啓発	医療費の助成を行うことにより、母（父）子家庭の保護者の経済的負担の軽減を図り、安心して子育てできる環境づくりを行うため、制度の普及・啓発に努めます。	市民課	◇支給 件数 4,770件 ◇支給医療費 10,632,997円 ・母子（父子）家庭に該当、転入時等に窓口等で制度について案内 ・随時窓口にてパンフレットを手渡し ・受給者証更新前に広報で案内 ・HPによる啓発
104	児童扶養手当支給事業の充実	父母の婚姻解消などにより、父親と生計を同じくしていない児童の母などが、その児童を監護・養育している場合、その母または養育者に手当を支給する事業です。ひとり親等家庭の経済的支援をするため、制度の普及・啓発に努めます。	社会福祉課	・受給資格者数 700人（全部支給停止者61人含む）H29.3.31現在 ・新規認定者 70人 ・支給給付費 309,338,540円 ・離婚、死亡、転入等届出時に市民課の窓口でパンフレットを手渡しして案内 ・離婚等相談時にパンフレットで制度について説明 ・HP、広報等で制度について啓発
105	非婚のひとり親家庭の支援の充実	非婚のひとり親家庭においては、母子家庭に比べて支援施策に差があることから、支援の充実に努めます。	こども育成課	婚姻歴のないひとり親に対して、税制上の寡婦（寡夫）控除が適用されたものとみなして、保育料を算定する。 （平成28年度対象者なし）
106	保育所等の優先入所の拡充	ひとり親家庭の就労を支援するため、保育所や放課後児童クラブへの優先入所に努めます。	こども育成課	保育所入所では、ひとり親家庭に対して保育の必要性の事由について、加算している。 放課後児童クラブについても、利用に際して考慮している。
107	母子・父子寡婦福祉資金の充実	母子・父子家庭の児童の就学・進学や就業に対し、貸し付けられる県の貸付金制度についての周知に努めます。	社会福祉課	・修学資金、修業資金、就学支度など貸付件数12件 ・相談時にパンフレットで制度の説明をしている。 ・HPやパンフレットで制度の周知
<b>(6) 子どもに関する専門的な知識と技術を要する支援に関する県が行う施策との連携</b>				
108	専門的な支援に関する県が行う施策との連携	児童虐待通告があった場合には、県豊岡こども家庭センター等の関係機関と密接な連携を図り、虐待を受けている子どもと家庭への迅速な対応に努める。	こども育成課	児童虐待の通報があった場合は、県子ども家庭センターと連携して対応している。 子どもを保護する必要がある場合は、施設等への措置権限を有する県こども家庭センターに送致することとしている。
<b>6. 仕事と子育ての両立の推進</b>				
<b>(1) 産休及び育児休業後における教育・保育施設等の円滑な利用の推進</b>				
109	教育・保育施設の利用定員の確保	(再掲)	こども育成課	
110	利用者支援事業の実施	(再掲)	こども育成課 健康増進課	
111	育児休業制度・介護休業制度等の普及・啓発	事業所を対象に、育児休業や介護休業などの取得者への理解と協力を得るため、国・県等の各種助成金制度などの周知・普及に努めます。	エコバレー推進課 環境経済課	・国、県が作成したポスター、パンフレットなどによる啓発
112	女性の再就職の支援	子育てにより就労を中断した女性の再就職に向けた情報の提供に努めます。	生涯学習課	①女性チャレンジ相談の開催 （内容）再就職等新たに何かを始めたい女性のための個別相談会 ・9/22（木・祝）参加者2名 ・2/15（水）参加者1名 ②女性のための働き方セミナー （内容）自分の特技を活かして『起業』を目指す女性を対象に、少人数で情報交換できる機会を提供し、夢への第一歩を踏み出すきっかけや助けあえる仲間づくりを支援。 ・7/13（水）参加者8名

平成29年度実施状況	平成29年度実施状況の評価と課題等	事業継続・見直し方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>相談時にパンフレットで自立支援につながる制度等の説明をし、情報提供している。</li> <li>HP、広報等で相談や制度について啓発</li> </ul>	<p>【評価】 計画に基づき、実施できている。</p> <p>【課題】 引き続き、制度の周知に努める。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇支給 件数 4,048件</li> <li>◇支給医療費 10,932,683円</li> <li>母子（父子）家庭に該当、転入時等に窓口等で制度について案内</li> <li>随時窓口にてパンフレットを手渡し</li> <li>受給者証更新前に広報で案内</li> <li>HPによる啓発</li> </ul>	<p>【評価】 市民課窓口での案内に加え、児童扶養手当を所管する社会福祉課から、母子家庭本人へ申請の案内をする文書を渡してもらうことにより、周知に努めている。</p> <p>【課題】 情報発信の工夫 関係所管課（社会福祉課）との更なる連携</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>受給資格者数 689人（全部支給停止者60人含む）H30.3.31現在</li> <li>新規認定者 81人</li> <li>支給給付費 307,432,570円</li> <li>離婚、死亡、転入等届出時に市民課の窓口でパンフレットを手渡しして案内</li> <li>離婚等相談時にパンフレットで制度について説明</li> <li>HP、広報等で制度について啓発</li> </ul>	<p>【評価】 計画に基づき、実施できている。</p> <p>【課題】 引き続き、制度の周知に努める。</p>	継続
	<p>【評価】</p> <p>【課題】</p>	継続
<p>保育所入所では、ひとり親家庭に対して保育の必要性の事由について、加点している。 放課後児童クラブについても、利用に際して考慮している。</p>	<p>【評価】 ひとり親家庭の児童の保育所等への入所調整に配慮している。</p> <p>【課題】</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>修学資金、修業資金、就学支度など貸付件数 9件</li> <li>相談時にパンフレットで制度の説明をしている。</li> <li>HPやパンフレットで制度の周知</li> </ul>	<p>【評価】 計画に基づき、実施できている。</p> <p>【課題】 引き続き、制度の周知に努める。</p>	継続
<p>児童虐待の通報があった場合は、県子ども家庭センターと連携して対応している。 子どもを保護する必要がある場合は、施設等への措置権限を有する県子ども家庭センターに送致することとしている。</p>	<p>【評価】 県子ども家庭センターとは密接に連携を図り、関係機関から情報収集し、迅速な対応に努めている。</p> <p>【課題】 県と市の役割分担を明確にして、増加する児童虐待への対応を迅速にすすめる。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>国、県が作成したポスター、パンフレットなどによる啓発</li> <li>豊岡市工業会総会（H29.4.21開催）において、第3次豊岡市男女共同参画プラン「働きやすい職場づくりを目指して」を配付し啓発</li> </ul>	<p>【評価】 現状把握ができていないため評価できない。</p> <p>【課題】</p>	継続
<p>①女性チャレンジ相談の開催 （内容）再就職等新たに何かを始めたい女性のための個別相談会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>8/24（木） 参加者3名</li> <li>11/11（土） 参加者2名</li> <li>2/26（月） 参加者2名</li> </ul> <p>②女性のための働き方セミナー （内容）再就職を目指す女性を対象に、自分の強みを理解し、これからの働き方、生き方のヒントを見つける少人数制セミナー 7/19（水）参加者10名</p>	<p>【評価】 専門の講師の助言や指導を受けることができ、きっかけ作りやヒントを得られる機会となっている。</p> <p>【課題】 ①個別相談は、県の相談員の派遣事業を活用しているため、実施回数や参加人数が限られ、相談したい人があっても参加できない人がいる。しかし市内又は近隣に相談員の資格を持つ人がみつからない。 ②働き方セミナーは、県の講師派遣事業を活用しており、1回の開催となっているため、再就職につながりにくい。</p>	平成30年度は、環境経済課が「子育て中の女性の就労促進事業」を実施し、重複ため休止の予定。

番号	施策名	施策の概要	担当課	平成28年度実施状況
113	女性の求職活動への支援	子育てにより離職した女性が、再就職しやすいように、国や県などの再就職支援に対する情報の提供に努めます。	エコバレー推進課 環境経済課	・国、県作成ポスター・パンフレット等による再就職支援の啓発 ・ごきんじょぶ豊岡市版による就職支援の啓発
<b>(2) 仕事と子育ての両立に向けた取り組みの推進</b>				
114	一般事業主行動計画の策定に向けた啓発	労働者が101人以上(平成23年度以降は101人以上)の事業所に対し、一般事業主行動計画の策定に向けた啓発に努めます。	エコバレー推進課 環境経済課	・国、県作成ポスター、パンフレット等による啓発 ・市ホームページによる啓発
115	仕事と家庭的責任の両立支援	男女ともに仕事と家庭生活のバランスが取れた生活が出来るように、男女共同参画社会づくりへの意識啓発に努めます。	生涯学習課	事業所向けにワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)等の啓発チラシを配布(H28.5)
116	男性向け子育て講座の実施	家庭における男性の家事・育児への参画と職場における仕事と生活の調和に対する理解が深まる学習機会の充実に努めます。	こども育成課	・各子育てセンターにおいて、父親対象の事業等を開催した。 ・6センター合計 34回実施 1,096人参加
<b>7. 安全・安心なまちづくりの推進</b>				
<b>(1) 安全・安心なまちづくりの推進</b>				
117	公共施設等における子育てバリアフリー化の推進	既存公共施設のバリアフリー化とともに、ベビーカーなどのためのスロープ、授乳コーナーやおむつ交換台、トイレ内のベビチェアの設置などを関係機関との連携のもと進め、子ども連れでも安全かつ安心して利用できる公共施設の整備を促進します。	総務課	子育て総合センターからのアドバイスを受け、乳幼児の利用が多い本庁舎1, 2, 6階及び稽古堂1階のトイレ内に、幼児用の補助便座を設置した。
118	通園・通学路の安全確保の推進	通園・通学路の安全点検を実施するとともに、子どもや車いすに配慮した段差の解消などのバリアフリー化や防犯灯の充実など、通園・通学路の安全確保を推進します。	生活環境課	①防犯灯の新設(5基) ②既設防犯灯の維持管理 ③防犯灯の区設置補助(1,092基)
119	通園・通学路の安全確保の推進	通園・通学路の安全点検を実施するとともに、子どもや車いすに配慮した歩道の整備、段差の解消などのバリアフリー化や防犯灯の充実など、通園・通学路の安全確保を推進します。	建設課	交通安全施設整備事業等 113,990千円 ・防護柵等 L=544m ・区画線 L=27,982m ・文マーク表示 N=43箇所 ・グリーンベルト L=190㎡ ・路肩整備 L=1,026m
120	交通安全教育の推進	幼稚園や保育所、小・中学校において、警察の協力のもと、講話やビデオ、実技指導などによる交通安全教室を実施しています。こどもが正しい交通ルールを学び、交通事故の防止につながるよう引き続き推進します。	こども教育課	各学校において交通安全教室を実施。
121	交通安全教育の推進	幼稚園や保育所、小・中学校において、警察の協力のもと、講話やビデオ、実技指導などによる交通安全教室を実施しています。こどもが正しい交通ルールを学び、交通事故の防止につながるよう引き続き推進します。	こども育成課	各幼稚園・保育園において交通安全教室を実施した。
122	防災教育の推進	災害発生時に、大切な命を守るとともに、被害にあった時直ぐに立ち直れる力を一人一人が身につけられるための防災教育を推進します。	こども教育課	メモリアルデーにおける防災・減災授業の実施 (5.23 10.20 1.17)

平成29年度実施状況	平成29年度実施状況の評価と課題等	事業継続・見直し方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国、県作成ポスター・パンフレット等による再就職支援の啓発</li> <li>・豊岡市工業会総会（H29.4.21開催）において、第3次豊岡市男女共同参画プラン「働きやすい職場づくりを目指して」を配付し啓発</li> </ul>	<p>【評価】 現状把握ができていないため評価できない。</p> <p>【課題】</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国、県作成ポスター、パンフレット等による啓発</li> <li>・市ホームページによる啓発</li> </ul>	<p>【評価】 現状把握ができていないため評価できない。</p> <p>【課題】</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>①第3次豊岡市男女共同参画プラン概要版の市内回覧</li> <li>②事業所に第3次豊岡市男女共同参画プラン「職場における男女共同参画」概要版を配布（H29.5）</li> <li>③男女共同参画週間の街頭啓発等</li> <li>④人権教育推進員の研修会等への講師派遣</li> <li>⑤商工会と商工会議所会報への広告掲載（各年4回）</li> <li>⑥事業所セミナー （内容）ワーク・ライフ・バランス等 11/29（水）参加者19名</li> </ul>	<p>【評価】 男女共同参画の意識は広がってきている。</p> <p>【課題】 意識は広がってきているものの、家事・育児の大部分を女性が担っている実態があるため、継続して周知・啓発を行う必要がある。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>各子育てセンターにおいて、父親対象の事業等を開催した。 6センター合計 35回実施 1,106人参加</li> </ul>	<p>【評価】 父親対象事業への参加者数が増加傾向であり、子育て、家庭教育への男女共同参画の啓発に資している。</p> <p>【課題】 父親が参加しやすい事業の形態、開催日時等検討し、より事業に参加しやすい環境を整える。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>ハートリーフ戦略室と連携し、市民広場を「子育て広場」として整備し、柵および遊具を設置した。また庁舎食堂内にキッズスペースを設置した。</li> </ul>	<p>【評価】 子ども連れの方にとってさらに利用しやすい庁舎となった。</p> <p>【課題】</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>①防犯灯の新設（7基）</li> <li>②既設防犯灯の維持管理</li> <li>③防犯灯の区設置補助（1,362基）</li> </ul>	<p>【評価】 昨年度に比べ、より多くの防犯灯を設置補助できた。</p> <p>【課題】 防犯カメラの導入についても考える時期にきている。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全施設整備事業等 55,626千円</li> <li>・防護柵等 L=459m</li> <li>・区画線 L=22,740m</li> <li>・グリーンベルト L=1,666㎡</li> <li>・歩道整備 L=196m</li> </ul>	<p>【評価】 緊急度の高い箇所から整備を行った。</p> <p>【課題】 通園・通学路の安全確保のため、今後も引き続き防護柵等の整備と維持が必要である。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校において交通安全教室を実施。</li> </ul>	<p>【評価】 ・各学校が警察と連携し、講話、ビデオ、道路横断の仕方や自転車の乗り方などの実技指導における交通安全教室を実施した。そのことに伴い、児童・生徒の交通安全に対する意識を高めることができた。</p> <p>【課題】 ・交通安全指導を行うものの、自転車等での交通事故は起こっている。引き続き、関係機関や家庭と連携した交通安全教育の充実が必要である。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>各幼稚園・保育園において交通安全教室を実施した。</li> </ul>	<p>【評価】 各園で教室を開催し、保護者も参加しているので、交通安全意識が高まっている。</p> <p>【課題】 交通安全に対する意識を常に持ち続けるよう、周知を継続する必要がある。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>メモリアルデーにおける防災・減災授業の実施 （5.23 10.20 1.17）</li> </ul>	<p>【評価】 ・毎年、毎学期行うことで災害発生時にとるべき行動や命の守り方を再確認できている。 ・「自分の命は自分で守る」といった防災意識を高めるよい機会となっている。</p> <p>【課題】 ・参観日やオープンスクール等も活用し、学校だけでなく、家庭と連携して防災意識を高めていくことが必要。 ・関係機関とも連携し、マンネリ化した内容とならないよう実施内容等を工夫していくことが必要。</p>	継続

番号	施策名	施策の概要	担当課	平成28年度実施状況
123	交通安全教育の推進	幼稚園や保育所、小・中学校において、警察の協力のもと、講話やビデオ、実技指導などによる交通安全教室を実施しています。こどもが正しい交通ルールを学び、交通事故の防止につながるよう引き続き推進します。	生活環境課	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室・自転車教室の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>幼児交通安全教室 28回</li> <li>小学校自転車教室 8回</li> <li>中学校自転車教室 2回</li> </ul> </li> <li>各学校・園における交通安全教室の実施</li> </ul>
124	地域の公園や広場の活用推進	地域に設置されている公園や広場が、地域の子どもたちが安全に遊べ、自然との親しみや地域住民とのふれあいが持てるような遊び場、居場所などとして活用されるよう、安全点検について周知を図り、地域での整備・維持について啓発に努めます。	都市整備課	<ul style="list-style-type: none"> <li>下陰さくら公園複合遊具改修工事</li> <li>大師山自然公園トイレ水洗化等工事</li> <li>適正な維持管理</li> <li>施設・遊具等の一斉点検</li> <li>施設・遊具等の補修・修繕</li> </ul>
125	地域の公園や広場の活用推進	まちを挙げた子育て応援の機運を高めるため、地域の小さな子どもたちが安全に遊べ、自然との親しみや地域住民とのふれあいが持てるような遊び場として活用されるよう、旧市町単位に「子育て広場」を整備します。	ハートリーフ戦略室	8月26日、9月16日の2回、庁内関係部署により「子育て広場整備にかかる庁内検討会」を開催。また、10月25日に15名の母親によるワークショップを開催し、整備方針をまとめた。
126	「豊岡市内遊び場マップ」の配布	在宅乳幼児や保護者同士の交流を促進するため、子育てセンター利用者や指導員などがともに情報を持ち寄って「豊岡市内遊び場マップ」を作成します。	こども育成課	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てセンター等で希望者に配布している。</li> <li>本庁市民課や各振興局市民福祉課で子育て世帯転入時に配布している。</li> </ul>
127	防犯等情報提供体制の充実	学校・地域・警察との連携を強化し、子どもたちを多くの人の目で見守る安全な地域コミュニティづくりを推進します。 また、「子どもを守る学校安全対策会議」を展開し、地域との連携に努めます。	こども教育課	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に学警連絡会を開催し、相互に情報交換を行い、学校・地域・警察との連携強化に努めた。</li> <li>「子どもを守る学校安全対策会議」を各学校で開催した。</li> </ul>
<b>(2) 子どもを取り巻く有害環境対策の推進</b>				
128	「子どもと心でつながる市民運動」の推進	青少年を健全に育成するため、まちぐるみで「子どもと心でつながる市民運動」を推進します。	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> <li>中高生の地域・地区行事への参画推進</li> <li>啓発活動（FMジャングル、機関紙、ホームページ等）</li> <li>子どもたちのインターネット利用に関する基準づくりに向けた取り組みを実施</li> </ul>
129	まちづくり防犯グループの推進	P T Aや地域のボランティアの協力により、子どもたちの登下校時だけでなく、常日頃の見守りなどを実施する地域防犯グループによる、安全・安心な地域づくりを推進します。	生活環境課	まちづくり防犯グループと県との連絡調整を実施
130	まちづくり防犯グループの推進	P T Aや地域のボランティアの協力により、子どもたちの登下校時だけでなく、常日頃の見守りなどを実施する地域防犯グループによる、安全・安心な地域づくりを推進します。	こども教育課	P T A及びボランティア（地域住民等）※1による登下校時の見守り活動の実施 ・見守り活動用ジャンパーの配布（各年） ※1 学校安全ボランティア及び学校支援地域本部事業登録ボランティア
131	子ども会・P T A活動の推進	地域において、子どもを犯罪や事故から守るためには、顔と名前の一致した関係を築くことが重要なことです。子ども会やP T A活動を支援し、あいさつ運動に努めます。	こども教育課	豊岡市P T A連合会として、P T C Aあいさつ強調月間の取り組みを実施（各園校P T A単位で実施） ①平成28年5月9・16・23日登校園時 延9,935人参加 P T A会員3,306人 園児児童生徒5,194人 地域住民1,435人 ②平成28年11月7・14・21日登校園時 延9,347人参加 P T A会員3,186人 園児児童生徒4,884人 地域住民1,277人 ※P T C A活動 従来のP T AにC（community=地域）を加え、地域が支える地域の学校を目指し、学校の教育活動へ地域の人材が参画・協議する、P T Aを中核した教育支援活動のこと。

平成29年度実施状況	平成29年度実施状況の評価と課題等	事業継続・見直し方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室・自転車教室の実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>幼児交通安全教室 14回</li> <li>小学校自転車教室 9回</li> <li>中学校自転車教室 2回</li> </ul> </li> <li>各学校・園における交通安全教室の実施</li> </ul>	<p>【評価】 幼少期から交通ルール・マナーを学び、交通安全に役立つことができた。</p> <p>【課題】</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>町分公園遊具更新工事</li> <li>下陰さくら公園園路改修工事</li> <li>ジャジャ山公園園路改修工事</li> <li>東山公園転落防止柵設置工事</li> <li>神武山公園桜の里づくり整備工事</li> <li>その他公園の維持、管理、修繕等</li> <li>公園施設、遊具等の一斉点検</li> <li>公園設置地域との維持管理業務委託契約</li> </ul>	<p>【評価】 遊具・園路等の更新及び改修により、一層安全・安心して利用できるようになった。 定期的な点検や修繕により、遊具の長寿命化、事故防止に資することが出来た。 地域への維持管理委託により、公園使用への関心を深めると共に、公園の安全安心な使用について意識付けをすることができた。</p> <p>【課題】 今後も既存の公園施設・遊具等の状況に合わせた適正な維持管理を行っていく必要があるが、老朽化が進んだ施設等もあり、修繕等維持管理費が高んでいる状況にある。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>豊岡を除く5地域では、地域住民による「子育て広場芝生化実行委員会」を設置し、地域住民の手により苗植えを行った。</li> <li>豊岡、城崎、日高地域の既存の公園・広場に共通の木製飛び出し防止柵と木製看板を設置し、子育て広場としてオープンした。（竹野、出石、但東はH30.7月オープン予定）</li> </ul>	<p>【評価】 小さい子どもが安心して遊べる広場が整備できた。また、地域住民による苗植え、水やりや草取りなどを行うことにより、地域をあげて子育てを応援する機運が高まった。</p> <p>【課題】 活用の促進と住民による継続的な管理</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てセンター等で希望者に配布している。</li> <li>そとあそび広場で実際に現地を利用し、利用の方法等を案内する。</li> </ul>	<p>【評価】 親子の外出の機会を増やし、親子同士交流しあう機会の創出につながった。</p> <p>【課題】 残部が少なくなってきたことから、更新、増刷の必要性について検討を行う。</p>	事業継続の検討
<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に学警連絡会を開催し、相互に情報交換を行い、学校・地域・警察との連携強化に努めた。</li> <li>「子どもを守る学校安全対策会議」を各学校で開催した。</li> </ul>	<p>【評価】 定期的な情報交換の場を持つことで情報共有することができ、連携した取組に結びついている。 これまでの取組の積み重ねにより、幅広い事案について早期に連携する体制ができてきている。</p> <p>【課題】 安全確保のため、迅速に情報提供できる体制を維持し続けることが必要。</p>	継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>中高生の地域・地区行事への参画推進</li> <li>啓発活動（FMジャングル、機関紙、ホームページ等）</li> <li>「早寝、早起き、朝ごはん」啓発チラシの作成・配布</li> <li>子どもたちのインターネット利用に関する基準づくりに向けた取り組みを支援</li> </ul>	<p>【評価】 子ども家庭、地域での連携を図ることで基本的な生活習慣の確立、関係機関との情報交換、地域内での顔見知り運動、見守りパトロール等の取り組みが推進されている。</p> <p>【課題】 子どもたちのインターネット利用基準の作成及び遵守を学校と家庭だけでなく地域も支援していく必要がある。</p>	継続
まちづくり防犯グループと県との連絡調整を実施	<p>【評価】</p> <p>【課題】 防犯グループの構成員の高齢化</p>	継続
P T A及びボランティア（地域住民等）※1による登下校時の見守り活動の実施  ※1 学校安全ボランティア及び学校支援地域本部事業登録ボランティア	<p>【評価】 「地域の子どもは地域で守る」体制が整っている。</p> <p>【課題】 見守り活動継続のため、地域ぐるみでボランティア確保の取組が必要と思われる。</p>	継続
豊岡市P T A連合会として、P T C Aあいさつ強調月間の取り組みを実施（各園校P T A単位で実施） ①平成29年5月8・15・22日登校園時 延9,674人参加 P T A会員3,620人 園児児童生徒4,580人 地域住民1,474人 ②平成29年11月13・20・27日登校園時 延9,777人参加 P T A会員3,538人 園児児童生徒5,003人 地域住民1,236人  ※P T C A活動 従来のP T AにC（community=地域）を加え、地域が支える地域の学校を目指し、学校の教育活動へ地域の人材が参画・協議する、P T Aを中核とした教育支援活動のこと。	<p>【評価】 強調月間だけではなく、平素から各単位P T Aにおいては立ち番・あいさつ運動に取り組んでいる。 あいさつ運動の取り組みは、登下校時の見守り活動と合わせて、顔と名前的一致した関係を築く一助となっている。</p> <p>【課題】 あいさつ運動の取り組みが、P T A・学校だけではなく、地域との協働活動となるように、より一層の働きかけを要すると思われる。</p>	継続

番号	施策名	施策の概要	担当課	平成28年度実施状況
132	青少年センター事業の推進	関係団体と協力し、街頭パトロール、啓発活動の実施や青少年を取り巻く環境浄化活動などの取組を推進します。	生涯学習課	青少年補導委員協議会との協働による活動 ・街頭補導パトロール 205回 ・地区内パトロール 31回 ・啓発事業 調査等 7/1 社会を明るくする強調月間 キャンペーンに参加 12/5, 13 青少年を取り巻く環境実態調査 青少年本部合同
<b>8. 次世代の親の育成支援</b>				
133	父親の育児参加促進事業の実施	(再掲)	こども育成課	
134	「とよおか子育て家庭応援カード」の充実	子育て中の保護者の経済的負担軽減を図るために、商店などの協力により、買い物などの際に割引や特典が受けられる制度の普及に努めます。	エコバレー推進課 環境経済課	・市ホームページなどによる制度の普及 ・乳幼児健診などを通じてカード交付 ・母子健康手帳交付時にカード交付 ・転入手続き時にカード交付 ・協賛店継続確認文書送付
135	ニート・ひきこもりの若者支援の推進	若者の自立支援を推進するため、「若者サポートステーション豊岡」の活動の支援をします。	エコバレー推進課 環境経済課	「若者サポートステーション豊岡」主催事業の周知を行った。  〔若者サポートステーション主催事業〕 ・就職セミナー ・就労体験 ・就職相談 ・保護者相談 等
136	若者の出会いの場の開設	豊岡婚活応援プロジェクト「はーとピー」(社会福祉協議会)へ補助し、多くの独身者にさまざまな出会いの機会を提供していきます。また、男性向けにスキルアップセミナーを開催し、出会い力を高めることで成婚数の増加を促します。	ハートリーフ戦略室	豊岡市婚活応援プロジェクト「はーとピー」で婚活イベントを開催し、出会いの場を提供した。(豊岡市社会福祉協議会が主催) イベント回数20回 参加者469名 カップル数80組 成婚把握数3組 スキルアップセミナー3回
137	中学生等の育児体験の実施	中学生や高校生、もしくはこれから結婚し子どもを生ま育てる若い世代を対象に、実際に赤ちゃんを抱っこしたり、あやしたりすることなどを通じ、子どもを生ま育てることの意義や生命の大切さなどを学ぶことができる機会の充実に努めます。	こども教育課	全中学校で実施。

平成29年度実施状況	平成29年度実施状況の評価と課題等	事業継続・見直し方針
青少年補導委員協議会との協働による活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・街頭補導パトロール 229回</li> <li>・地区内パトロール 43回</li> <li>・啓発事業 調査等</li> </ul> 7/1 社会を明るくする強調月間 キャンペーンに参加 12/4,5 青少年を取り巻く環境実態調査 青少年本部 合同	<b>【評価】</b> 地域の青少年の非行を未然に防止するための街頭補導活動や啓発活動、健全な環境を守るための環境浄化活動を地道に行い、また小学校の見守りや防犯グループ等との繋がりもあり、地域の安心・安全に貢献している。 <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧市町地域間の活動レベルに差がある。</li> <li>・委員の高齢化、新委員の加入。</li> </ul>	継続
/	/	/
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市ホームページ、市広報などによる制度の普及</li> <li>・各課窓口でのパンフレット配布</li> <li>・乳幼児健診などを通じてカード交付</li> <li>・母子健康手帳交付時にカード交付</li> <li>・転入手続き時にカード交付</li> <li>・協賛店継続確認文書送付</li> </ul>	<b>【評価】</b> 実施できている。H29年度協賛店数：242店舗 <b>【課題】</b> 「とよおか子育て家庭応援カード」の充実	継続
「若者サポートステーション豊岡」主催事業の周知を行った。  [若者サポートステーション主催事業] <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職セミナー</li> <li>・就労体験</li> <li>・就職相談</li> <li>・保護者相談 等</li> </ul>	<b>【評価】</b> 事業の周知等によりH29年度は下記の実績となった <ul style="list-style-type: none"> <li>○若者サポートステーション豊岡（豊岡地域）</li> <li>登録者数：23人</li> <li>就労者数：11人</li> </ul> <b>【課題】</b> 但馬地域及び京丹後市の支援団体と、行政等関係機関による広域的な連絡調整会議等での情報交換	継続
豊岡市婚活応援プロジェクト「はーとピー」で婚活イベントを開催し、出会いの場を提供した。（豊岡市社会福祉協議会が主催） イベント回数13回 参加者311名 カップル数60組 成婚把握数7組 スキルアップセミナー3回	<b>【評価】</b> 60組のカップル、報告があっただけでも7組の成婚があり、出会い機会の充実が図られた。毎回定員を上回る応募があり、若者の結婚応援活動として認知されている。 <b>【課題】</b> 成立カップル数が多い割には、成婚が少ない。報告のない成婚者の把握が難しい。	継続
全中学校で実施。	<b>【評価】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育児体験を通して、自分も大切に育てられたことに気づくことができた。また、生徒たちに「思いやりの心」や「命の大切にする心」を育むことのできるよい機会となっている。</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校によっては、少子化に伴い、ふれあえる園児の数が減ってきている。</li> <li>・活動させていただく幼稚園や保育園までの移動時間がかかる中学校がある。</li> </ul>	継続